

CONTENTS

I 履修要項・履修案内

| | |
|--|---|
| 1 単位計算方法について | 1 |
| 講義および演習科目／実験および実習科目／その他の科目 | |
| 2 履修登録について | 1 |
| 前期課程／後期課程／人間生活学研究科の履修登録 | |
| 3 授業について | 2 |
| 授業時間／休講／補講／授業への出席、欠席／ 授業への遅刻、早退／証明書等の取扱いについて（まとめ） | |
| 4 試験について | 6 |
| 試験の種類と受験手続／受験時の諸注意／時間割／ 不正行為・不正レポートと罰則／レポート、修士論文・博士論文等の提出 | |
| 5 成績評価について | 9 |

II 学籍上の諸手続き

| | |
|---------------------------------|----|
| 1 学籍異動について | 10 |
| 休学／復学／退学／長期履修学生制度／在学期間延長／再入学／除籍 | |

III 教務事務の取扱い

| | |
|---------------------------------|----|
| 1 事務取扱い時間について | 12 |
| 2 学生ポータルサイト（K-PORT）による伝達・連絡について | 12 |
| 3 諸届、願出について | 13 |
| 4 証明書等の発行について | 13 |

IV 大学院文学研究科

| | |
|------------------------|----|
| 行事予定 | 16 |
| 教員組織 | 20 |
| 主な役職者 | 20 |
| 授業科目配当表 | 21 |
| 時間割表 | 30 |
| 博士課程・前期課程修了資格 | 32 |
| 博士課程・後期課程修了資格 | 32 |
| 指導教員について | 33 |
| 資格取得について | 33 |
| 中学校及び高等学校教諭専修免許状取得について | 33 |
| 専門社会調査士について | 37 |
| 履修規程 | 38 |
| ディプロマ・ポリシー | 40 |
| カリキュラム・ポリシー | 42 |

V 大学院人間生活学研究科

| | |
|------------------------|----|
| 行事予定 | 46 |
| 教員組織 | 50 |
| 主な役職者 | 50 |
| 授業科目配当表 | 51 |
| 時間割表 | 57 |
| 資格取得について | 59 |
| 中学校及び高等学校教諭専修免許状取得について | 59 |
| 幼稚園教諭専修免許状取得について | 60 |
| 公認心理師の資格について | 61 |
| 臨床心理士の資格について | 63 |
| 消費生活アドバイザーの資格について | 64 |
| 消費生活相談員の資格について | 65 |
| ファイナンシャル・プランナーの資格について | 66 |
| 繊維製品品質管理士の資格について | 67 |
| 履修規程 | 68 |
| ディプロマ・ポリシー | 70 |
| カリキュラム・ポリシー | 71 |

1

単位計算方法について

各授業科目の単位数は、1単位の履修時間を教室内および教室外を合わせて45時間とし、次の基準により計算するものとします。なお、90分の授業をもって2時間と計算します。

(1) 講義および演習科目

15時間から30時間までの範囲で本大学院が定める時間の授業をもって1単位とします。

(2) 実験および実習科目

30時間から45時間までの範囲で本大学院が定める時間の授業をもって1単位とします。

(3) その他の科目

講義、演習、実験または実習のうち2以上の方により行う場合については、その組み合わせに応じ、実験および実習科目に規定する基準により算定した時間の授業をもって1単位とします。

2

履修登録について

履修登録とは、学生各自が、自分の履修すべき授業科目を決定し、所定のルールと手続きにしたがつて、学生本人の責任において大学に届け出る行為です。履修登録していない場合、授業に出席し試験等を受験しても、単位修得の対象なりません。

(1) 前期課程

- ① 履修登録期間内に別冊の「履修登録の手引き」にしたがって行ってください。
- ② 専攻主任が必要と認めた時は、本学の他の研究科、本研究科の他専攻の授業科目を履修することができます。
- ③ 専攻主任が必要と認めた時は、他大学の大学院または研究所の授業科目等を履修することができます。

(2) 後期課程

履修登録期間内に別冊の「履修登録の手引き」にしたがって行ってください。

(3) 人間生活学研究科の履修登録

人間生活学研究科の学生については、毎学期の履修登録締め切りまでに、学則第11条別表Ⅱの授業科目の中から履修する科目を選定し、指導教員及び副指導教員の承認を受けてください。

3

授業について

(1) 授業時間

授業は、1時限90分で行われます。通常授業は、平日は第5限、土曜日は第2限までです。
第6限は授業期間内の補講専用時限です。ただし、土曜日の第6限はありません。



(2) 休講

授業担当教員のやむをえない事由あるいは暴風警報発令等により、授業を休講にすることがあります。

- ① 予め判明している休講は、事前にK-PORTで発表します。
- ② 休講の発表がない場合で、授業開始時刻から30分以上経過しても授業担当教員から教室に連絡がない場合は、履修支援センターに連絡し、指示を受けてください。
- ③ 暴風警報発令等による休講措置については、次のとおりです。

注意
Attention

暴風警報発令等による休講措置

① 東海地震に関する注意情報もしくは予知情報（警戒宣言）が発表された時

② 未明から愛知県西部の尾張東部と尾張西部のいずれかの市町村に暴風警報（暴風特別警報を含む）または暴風雪警報（暴風雪特別警報を含む）が発令
尾張東部の市町村：名古屋市、瀬戸市、春日井市、犬山市、小牧市、尾張旭市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町
尾張西部の市町村：一宮市、津島市、江南市、稲沢市、岩倉市、愛西市、清須市、北名古屋市、弥富市、あま市、豊山町、大口町、扶桑町、大治町、蟹江町、飛島村

③ 未明から名古屋鉄道または名古屋市営交通が運転ストライキ実施中（集改札ストライキを除く）

午前7時の時点で解除されている
午前7時の時点で解除されていない
午前11時の時点で解除されていない

休講 **通常授業** **第1限と第2限の授業を休講** **全日休講**

※事態の発生が、未明から第1限の授業開始までの場合を含む。

1) 第1限の授業開始以降に、②または③の事態が発生したときは、その状況をみて、学長が全学休講とするか否かを決定し、発表します。
※全学休講の場合は、その内容を大学ホームページで発表するとともに校内放送により通知します。

2) 愛知県西部の尾張東部と尾張西部の地域以外に在住する学生で、居住する地域・通学経路に暴風警報（暴風特別警報を含む）または暴風雪警報（暴風雪特別警報を含む）が発令された場合は自宅等で自己防災してください。
居住する地域・通学経路に発令された暴風警報（暴風特別警報を含む）かつ暴風雪警報（暴風雪特別警報を含む）が解除された時点で、授業が行われている場合は、安全等を確認し出校してください。出校できなかった場合は、履修支援センターで必要な手続きをすることにより欠席とはみなしません。

3) 愛知県東部の市町村に暴風警報（暴風特別警報を含む）または暴風雪警報（暴風雪特別警報を含む）が発令された場合は、未明から第1限の授業開始までの間は、該当する市町村の休講措置を実施する。

4) その他、特別な事由により、学長判断で休講となる場合があります。

愛知県

西部

東部

平成24年1月4日現在

(3) 補講

休講があった場合は、原則として授業が補てんされます。この補てん授業を補講といいます。

補講は、授業期間の第5限、土曜日（1～5限）、補講専用時限（第6限）および休暇期間中等に実施されることがあります。その他、暴風警報発令等の理由により全学が休講となった場合には、前・後期にそれぞれ設定されている予備日（各研究科行事予定参照）に補講を行う場合もあります。補講の実施は、事前にK-PORTで発表します。また、LMS（ラーニングマネジメントシステム）を利用した補講を行うことがあります。LMSを利用した補講については、授業担当者から案内があります。

(4) 授業への出席、欠席

① 授業への出席と単位認定について

授業には、原則としてすべて出席する必要があります。実授業回数の3分の1以上欠席した場合、当該科目の成績評価は「失格」となり、単位は認定されません。

② 授業を欠席した場合の例外的取扱いについて

以下のa,b,cの理由による場合は、(4) ①の「欠席」とはみなしません。また、d,eの理由による場合は、授業担当者の判断により、「欠席」とみなさないことがあります。欠席事由が解消した翌日から起算して7日以内に履修支援センターで手続きすることにより、a,b,c,eの場合は「欠席理由証明書」を、dの場合は「学外実習等出席証明書」を発行します。（集中講義はcの場合のみ「欠席理由証明書」を発行します。）

発行された証明書は、すみやかに授業担当者へ提出してください。提出期限は各授業の最終回までです。最終回の授業を例外的取扱い等に該当する理由で欠席した場合の取扱いは、③を参照してください。

a 学校保健安全法施行規則第18条に規定されている感染症（4ページ参照）に感染または感染の疑いがある場合

証明書 医師による診断書

*ただし、日数は、学校保健安全法施行規則第19条に規定されている「出席停止の期間の基準」とする。

b 忌引きの場合

証明書 会葬礼状など

会葬礼状が提出できない場合は、履修支援センターに問い合わせてください。

忌引きは二親等までとし、次に示された日数*です。

*葬儀の日を含む連続の日数

配偶者 10日以内

一親等
の親族 血族…7日以内
姻族…5日以内

二親等
の親族 血族…3日以内
姻族…2日以内

(注)生計をひとつにする姻族は血族に準ずる。

c 居住する地域・通学経路で暴風警報等が発令された場合

証明書 不要

d 資格取得に伴う以下の各種学外実習の期間が重なった場合

証明書 不要

博物館実習、早期英語教育実習、ソーシャルワーク実習、保育実習（保育所・施設いずれも事前事後指導を含む）、心理実習、教育実習（小・中・高・栄養は教員採用試験を含む）、幼稚園教育実習の事前事後指導、介護等体験、臨地実習

e その他教務部長が特別に認めた場合

証明書 理由書、主催団体等の証明書など

例：国民体育大会および選考基準がそれに準ずる全国大会に出場する場合

日本音楽コンクールおよびそれに準ずるコンクールに出場する場合

何らかの事件の証人として出廷を依頼された場合

骨髄移植のボランティアドナーとして入院を依頼された場合

事件等にまきこまれ、警察等に緊急で連絡をしなければならない場合

③ 最終回の授業を欠席した場合の取扱いについて

最終回の授業を例外的取扱い等に該当する理由で欠席し、①～③の提出物（その他は対象外）を授業担当者に渡すことができない場合、以下の通り取扱います。ただし、試験期間内試験（16週目の試験）があり、直接授業担当者に提出することができる場合には、各自で提出してください。やむを得ない事情等により、期限までに手続きが困難な場合には、事前に履修支援センターへ相談してください。

手続きに必要な書類や注意事項等は（6）証明書等の取扱いについて（まとめ）に掲載しています。

①欠席理由証明書、学外実習等出席証明書

最終回の授業を「授業を欠席した場合の例外的取扱いについて」に該当する理由で欠席した場合は、履修支援センターに「欠席理由証明書」、「学外実習等出席証明書」を提出してください。履修支援センターが授業担当者に送付します。手続き期限は、試験期間最終日までです。

②レポート、課題等

最終回の授業を「授業を欠席した場合の例外的取扱いについて」または就職試験、通学経路での公共交通機関の事故（追試験の❶または❷）に該当する理由で欠席したため、授業内のレポート、課題等の提出ができなかった場合は、履修支援センターにレポート、課題等を提出してください。履修支援センターが授業担当者に送付します。手続き期限は、試験期間最終日までです。

③遅延証明書

最終回の授業を通学経路での公共交通機関の遅延等により欠席した場合は、履修支援センターに「遅延証明書」を提出してください。履修支援センターが授業担当者に送付します。手続き期限は、試験期間最終日までです。

【学校保健安全法施行規則第18条に規定されている感染症】

学校保健安全法施行規則に指定された病名は次のとおりです。医師の診察を受け伝染の恐れがないと診断されてから登校してください。登校には、病名と出席停止期間が記載された診断書が必要です。診断書は、履修支援センターへ提出してください。

| | 病　名 |
|-----|--|
| 第一種 | エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘瘡、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARSコロナウイルス）、中東呼吸器症候群（MERSコロナウイルス）、特定鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症 |
| 第二種 | インフルエンザ、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風疹（三日はしか）、水痘（みずぼうそう）、咽頭結膜熱（ブル熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎 |
| 第三種 | コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎 |

（5）授業への遅刻、早退

授業への30分以上の遅刻は、遅刻とはみなさず欠席となります。ただし、通学経路での公共交通機関の遅延等により、遅延証明書が提出された場合を除きます。遅延証明書は直接授業担当者に提出してください。遅刻は2回をもって1回の欠席となります。早退についても遅刻と同様の扱いとします。

(6) 証明書等の取扱いについて（まとめ）

授業を例外的取扱いにより欠席した場合の証明書（3ページ ② 授業を欠席した場合の例外的取扱いについて）

注意：再発行はできません。発行後はすみやかに授業担当者に提出してください。

発行期間内に手続ができない場合は、期限内に履修支援センターに申し出てください。

| | | |
|----------------|-----|--|
| 欠席理由 証明書 | 発 行 | 窓 口：履修支援センター 期 間：欠席事由が解消した翌日から起算して7日以内 条 件：3ページ ② a b c e の理由 必要書類：欠席事由により異なる |
| | 提 出 | 提出先：各授業担当者 期 限：最終回の授業まで |
| | 取扱い | a b c は欠席とみなさない e は授業担当者の判断による |
| 学外実習等 出席証明書 | 発 行 | 窓 口：履修支援センター 期 間：欠席事由が解消した翌日から起算して7日以内 条 件：3ページ ② d の実習 |
| | 提 出 | 提出先：各授業担当者 期 限：最終回の授業まで |
| | 取扱い | 授業担当者の判断による |

授業に公共交通機関の遅延により遅刻した場合の証明書（4ページ（5）授業への遅刻、早退）

注意：通学経路での遅延等に限ります。

| | | |
|-------|-----|--|
| 遅延証明書 | 発 行 | 窓 口：各公共交通機関 期 間：各公共交通機関により異なる |
| | 提 出 | 提出先：各授業担当者 期 限：最終回の授業まで（原則は当日授業または次回授業まで） |
| | 取扱い | 遅刻とはみなさない（遅延時間によっては欠席とはみなさない） |

最終回の授業を例外的取扱い等により欠席した場合に提出できる証明書、レポート、課題等

（4ページ ③ 最終回の授業を欠席した場合の取扱いについて）

注意：授業担当者に提出できる場合は、各自で提出してください。下表のもの以外は受取れません。

試験等が実施されていた場合、課題等が課されることがあります。その場合はK-PORTで連絡します。

| | | |
|-------------|------|---|
| 欠席理由 証明書 | 発 行 | 期 間：欠席事由が解消した翌日から起算して7日以内。ただし、試験期間最終日まで。 |
| | 提 出 | 提出先：履修支援センター 期 限：各期の試験最終日まで |
| 遅延証明書 | 提 出 | 提出先：履修支援センター 期 限：各期の試験最終日まで |
| レポート 課題等 | 条件 | 4ページ ③ または6ページ「追試験」bまたはfに該当し、提出日が最終回の授業のもの。 |
| | 必要書類 | 「欠席理由証明書」、「学外実習等出席証明書」、「遅延証明書」または追試験手続き書類。 |
| | 提 出 | 提出先：履修支援センター 期 限：各期の試験最終日まで |
| | 注 意 | 最終回の授業より前に提出機会があったにもかかわらず、提出しなかった場合は受取りません。 |

4

試験について

試験方法には、筆記試験のほか、プレゼンテーション、レポート提出、論文提出、作品提出、実技、実験、実習などがあります。

(1) 試験の種類と受験手続



授業期間内試験とは、通常授業期間中に実施される試験です。

試験の詳細は、授業担当者から指示があります。

原則として追試験（③ 追試験を参照）の対象にはなりませんので、各教員の指示に従ってください。



試験期間内試験とは、試験期間中（16週目）に実施される試験です。

試験の詳細は、事前にK-PORTで発表します。

追試験（③ 追試験を参照）の対象になります。



追試験とは、以下 a～h の理由によって、試験期間内試験を受験できなかった学生で、所定の期日までに必要な手続きを行い、教務部長が認めた場合に実施される試験です。詳細はK-PORTで確認してください。なお、追試験料は無料です。

a 資格取得に伴う以下の各種学外実習の期間が重なった場合 証明書 不要

博物館実習、早期英語教育実習、ソーシャルワーク実習、保育実習（保育所・施設いずれも事前事後指導を含む）、心理実習、教育実習、幼稚園教育実習の事前事後指導、介護等体験、臨地実習

b 教員採用試験、保育士試験、図書館司書講習、就職試験が重なった場合

証明書 受験先の証明書または受験票（受講許可証）の写し

c 文化・スポーツおよび社会的活動の全国大会以上出場、もしくは、そのための公的機関が実施する強化合宿等の日程が重なった場合

証明書 当該大会等を主催する公的機関の証明書

d 居住する地域・通学経路で暴風警報等が発令された場合 証明書 不要

e 病気・ケガの場合 証明書 医師による診断書または保健センター利用証明書

f 通学経路での公共交通機関の事故（自家用車による通学での事故等は認められない）の場合

証明書 遅延証明書、警察による事故証明など

g 忌引きの場合 証明書 会葬礼状など

会葬礼状が提出できない場合は、履修支援センターに問い合わせてください。

忌引きは二親等までとし、次に示された日数*です。

*葬儀の日を含む連続の日数

配偶者

10日以内

一親等
の親族

血族…7日以内
姻族…5日以内

二親等
の親族

血族…3日以内
姻族…2日以内

(注)生計をひとつにする姻族は血族に準ずる。

h その他正当と認められる理由の場合 証明書 保証人連署の理由書など

事前に履修支援センターに問い合わせてください。



- ① 集中講義の試験は、16回目に実施することがあります。
- ② 試験教室は、授業の教室と異なる場合があります。
- ③ 追試験を欠席した場合の追試験は実施しません。

(2) 受験時の諸注意

次の受験時の諸注意は必ず守ってください。なお、まぎらわしい行為は不正行為とみなされる場合があるので、受験の際は、他から疑問をいだかれるような行為はとらないようにしてください。

【試験期間内試験】

- ① 学生証を必ず携帯し、試験中は写真の面を上にして机上に提示し、試験監督者が確認しやすいように置くこと。
- ② 学生証を忘れた、または紛失した場合は、受験前に履修支援センターへ願い出て、受験許可証を発行してから受験すること。なお、受験許可証は、発行日のみ有効であり、使用後は当日中に必ず履修支援センターへ返却すること。
- ③ スマートフォン等の通信可能な端末は、電源を切ってカバンに入れること。時計はアラーム音を切ること。試験中に鳴った場合は、退室を命じられます。
- ④ 机上には、学生証、鉛筆類、消しゴム、鉛筆削り、時計（ただし、計算機能や翻訳機能つきの時計を除く）、めがね、持込み許可物件以外のものは置かないこと。なお、必要なものがある場合には、事前に試験監督者に許可を得ること。
- ⑤ 机の中には何も入れないこと。試験に不要な物は、カバン等に入れて、椅子の下に置くこと。
- ⑥ 試験教室においては、常に試験監督者の指示に従うこと。指示に従わない場合は、退室を命じられます。

【授業期間内試験】

原則として試験期間内試験の内容に準じますが、詳細は授業担当者の判断に依ります。授業担当者の指示に従ってください。

(3) 時間割

【試験期間内試験】

| | 第1限 | 第2限 | 第3限 | 第4限 | 第5限 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 入室時刻 | 9:10 | 10:55 | 13:20 | 15:05 | 16:45 |
| 試験開始時刻 | 9:20 | 11:05 | 13:30 | 15:15 | 16:55 |
| 遅刻限度時刻 | 9:40 | 11:25 | 13:50 | 15:35 | 17:15 |
| 試験終了時刻 | 10:20 | 12:05 | 14:30 | 16:15 | 17:55 |

- ① 試験時間割は、授業時間割に準じます。
- ② 試験時間は原則60分です。
- ③ 入室時刻までに着席してください。
- ④ 遅刻限度時刻以降の入室は認められません。

【授業期間内試験】

授業時間内に行われます。詳細は授業担当者の指示に従ってください。

(4) 不正行為・不正レポートと罰則



成績評価につながる全ての試験は、評価の割合にかかわらず、静謐かつ公正に行われるべきと考えます。
不正行為を行った者を、学則第35条に基づき、謹責、停学、退学のいずれかの懲戒に付します。

同時に、その学期の全科目の成績評価を「失格」とします。

① 不正行為について

試験中に不正行為を行ったと認められた学生は、直ちに受験を停止し、試験監督者の指示に従わなければなりません。

以下の場合は、不正行為にあたります。

- a) 他人の答案用紙をのぞいたり、他人と答案用紙を交換した場合
- b) 他人と話をした場合
- c) 当該試験科目に関係したものであるか否かを問わず、不正行為物件（カンニングペーパー、スマートフォン等の通信可能な端末、デジタルオーディオプレーヤー等の不正行為に使用できる全ての用具をいう）を所持していた場合
- d) 本人が書いたか否かを問わず、机上等に当該試験科目の内容が書いてある場合
- e) 代理受験を行ったり、依頼をした場合
- f) 持ち込みが許可されている物の貸借をしていた場合
- g) その他、試験監督者が不正行為と認めた場合

② 不正レポートについて

書籍、論文、新聞、ホームページ、他の学生が書いたレポート等に記載されたものを、出典を明らかにせずに用いる等、剽窃（ひょうせつ）した箇所があるレポートは不正レポートとみなし、提出者の当該科目の成績評価を「失格」とします。

なお、他人のレポートを丸写ししたり、他人にレポート作成を依頼するなど、悪質な不正レポートと認められる場合は、不正行為とみなします。

※不正レポートとみなされないための注意

自分の意見を述べるために、必要な範囲で他の著作物から引用する場合は、引用箇所を「」で囲むなどして明示するとともに、出典を明らかにする必要があります。以下に引用の仕方の一例を記します。このような形で記述すれば、不正レポートとみなされることはありません。なお、専門分野によって表記の方法が異なるため、当該科目の担当教員の指示に従ってください。

《引用の仕方の例》

(例) 金城花子 (2008) は、「……」と述べている。一方、金城すみれ (2009) は「……」と述べている。

引用文献

- 1) 金城花子 (2008)、書名、○○出版社、pp.100-112
- 2) 金城すみれ (2009)、サイト名、<http://www.kinjo-u.ac.jp/kyoumu-sample.html>
(最終アクセス日 2009/07/10)

(注) 引用文献は文末に示すことが一般的です。

(5) レポート、修士論文・博士論文等の提出

① レポートの提出について

- a) レポートには、表紙をつけ、右の見本のように各項目名を記載してください。
- b) レポートは、インク、ボールペン、パソコンを用いて作成してください。
- c) レポートは、指定された提出先に期限を守って提出してください。
- d) レポートは、ラーニングマネジメントシステムmanabaによる提出とします。以下の事項に注意してください。
 - レポートをmanabaにアップロードしただけでは提出はできません。必ず提出（ボタン）を押してください。
 - 一度提出したレポートは、修正や再提出ができない場合があります。
- e) 紙面による提出の指示がある場合は、ホッチキスやひもなどで綴じてから提出してください。

見本 A 4 判 (例)

年度、学期、履修クラス

科目名、担当教員名

レポート題目

(必要に応じて副題目)

所属専攻、学年、組、学籍番号

氏名 (必要に応じてローマ字名も)



履修支援センターのレポート受理について

授業担当者が提出先を履修支援センターと指定したレポートに限り受理します。

履修支援センターのレポート提出ボックスで回収する場合の提出期限は、提出締切日の15：30です。

郵送によるレポート提出は受け付けないので注意してください。

また、授業担当者に直接提出するレポートについては、途中の事故を防ぐため、履修支援センターでは一切取り扱いません。授業担当者の指示に従ってください。ただし、最終回の授業に欠席した場合のレポートの取扱いについては4ページを参照してください。

② 修士論文・博士論文の提出について

修士論文・博士論文は、指定された期日までに履修支援センターへ提出してください。郵送によるものは受理しませんので注意してください。

その他提出に係る詳細は、K-PORTなどで通知されます。

5 成績評価について

履修した授業科目は、通年科目の場合は年間の成績で単位認定され、半期科目の場合は半年間の成績で単位認定されます。

いったん認定された単位の取消しおよび成績評価の変更はできません。

① 成績評価と合否の別および単位認定の可否については次のとおりです。

合格

単位認定可

| 成績評価等 | 成績評価の内容 |
|-------|-----------|
| A | 80点～100点 |
| B | 70点～80点未満 |
| C | 60点～70点未満 |

不合格

単位認定不可

| 成績評価等 | 成績評価の内容 |
|-------|-------------------------------------|
| F | 60点未満 |
| 失 | 実授業回数の3分の1以上欠席した場合等 不正行為を摘発された場合 |

保留

単位認定保留

| 成績評価等 | 成績評価の内容 |
|-------|-----------------|
| 保 | 授業料等の学納金が未納の場合等 |

- ② 成績の結果発表（成績単位修得通知表発行日）は、在学生オリエンテーション時に行います。日程は、各研究科行事予定を参照してください。
- ③ 成績問い合わせは、原則として、成績単位修得通知表の発行日より1週間以内（最終日が休日の場合、その翌日）に、履修支援センターで受け付けます。後期の在学生オリエンテーションを行わない場合も同様です。修了予定者発表日に成績が開示される後期課程3年生、前期課程2年生の成績問い合わせは、K-PORTで別途案内します。

1

学籍異動について

学生の身分に関する異動（学籍異動）には、休学、復学、退学、長期履修学生制度、在学期間延長、再入学、除籍等があり、事情および必要に応じて願い出ることができます。いずれの場合にも、研究科委員会の承認が必要となるので、事前に指導教員とよく相談して進めるようにしてください。各所定の願（様式）は指導教員と相談後、履修支援センターでお渡しします。

（1）休学

病気またはその他のやむをえない理由により、修学困難な期間が2ヶ月以上となるような場合は、休学を願い出ることができます。休学期間は半期または1年間です。休学を願い出る場合は、保証人（保護者）連署の上で、本学所定の休学願を提出してください。

- ① 入学初年次の前期については、その理由が病気または留学の場合を除き休学は許可されません。
- ② 休学期間中は、授業料等の学納金に代えて在籍料を納付してください。授業開始8週間以内に休学を願い出た場合の在籍料は、半期50,000円です。また、授業開始8週間を経た後に休学を願い出た場合の当該学期の在籍料は、授業料の半額相当額です。
- ③ 在学期間の延長をした者が休学する場合の在籍料は、半期50,000円です。
- ④ 休学の理由が病気の場合は、医師の診断書を添えてください。
- ⑤ 休学は、1年以上にわたることができません。ただし、特別な事情がある場合は、引き続き許可されることがあります。
- ⑥ 休学期間は、通算して、前期課程においては2年、後期課程においては3年を超えることはできません。ただし、2016年度以降の入学生に適用されます。
- ⑦ 休学期間は、在学期間に含まれません。

（2）復学

休学が終了した場合（休学期間中に休学の理由が解消した場合を含む）は、保証人（保護者）連署の上で、本学所定の復学願を提出してください。

病気による休学の場合は、復学可能であることを証明する医師の診断書を添えてください。

（3）退学

病気またはその他のやむをえない理由により退学を願い出る場合は、保証人（保護者）連署の上で、本学所定の退学願を提出してください。

- ① 納付済みの授業料等の学納金は、事情の如何にかかわらず返却されませんので、注意してください。
- ② 退学年月日は、原則として授業料等納入期の終了の日となります。ただし、授業料等納入済みの学期の途中で退学する場合は、この限りではありません。
- ③ 後期課程における満期退学の場合も、退学願を提出する必要があります。

（4）長期履修学生制度

長期履修学生制度とは、職業、出産、育児、介護、その他学業に専念できない事情等により標準修業年限（前期課程2年、後期課程3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを希望する場合に、その計画的な履修を認める制度です。長期履修の開始日は年度始めとし、前期課程では4年、後期課程では6年を超えることはできません。希望者は、指導教員の承認を得て、本学所定の長期履修申請書および指定の書類を期日までに提出してください。

- ① 長期履修期間中に、就業環境の変化等により必要が生じた場合には、長期履修期間の変更（短縮または延長）を申請することができます。（ただし、2017年度以降の入学生は1回限り）

- ② 修業年限の延長を希望する場合、その適用を開始する年度から起算し、残りの修業年数が1年に満たない場合は、申請できません。
- ③ 2017年度以降の入学生が、在学途中から新たに長期履修を申請する場合、延長できる修業年数は、残りの修業年数の2倍に相当する年数以内です。
- ④ 学納金のうち授業料及び施設設備費は、標準修業年限に支払うべき授業料及び施設設備費の総額を、あらかじめ認められた修業年限で除した額をそれぞれの年（学期毎）に支払うことになります。
- ⑤ その他、長期履修学生制度についての詳細は、履修支援センターに問い合わせてください。

（5）在学期間延長

後期課程において標準修業年限を満了し、修了に必要な単位を修得した者のうち、博士論文提出のために引き続き在学を希望する者については、在学期間の延長を認めることができます。希望者は、指導教員の承認を得て、本学所定の在学期間延長申請書を期日までに提出してください。

（6）再入学

いったん本大学院を退学したものの、再び本大学院での修学を希望する場合は、再入学を願い出ることができます。再入学を願い出る場合は、保証人（保護者）連署の上で、本学所定の再入学願を提出してください。

- ① 退学の理由が正当なものでない場合は、再入学が許可されないことがあります。なお、学則第31条2項に基づき満期退学となった者、学則第35条及び第36条に基づき退学となった者は再入学できません。
- ② 再入学は、各年度初めに限られます。再入学願は1月1日から1月31日までの事務取扱日に提出してください。
- ③ その他、再入学についての詳細は、履修支援センターに問い合わせてください。

（7）除籍

次のいずれかに該当した者を、除籍することができます。

- ① 学則第7条第2項に定める在学年限を超えた者
- ② 学則第29条第3項第4項に定める休学の期間を超えてなお復学できない者
- ③ 授業料及びその他の所定の学納金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- ④ 長期間にわたって行方不明の者
- ⑤ 在学中に死亡した者

1

事務取扱い時間について

事務の取り扱い時間は、次のとおりです。必ず時間を守ってください。

電話・メールでの問い合わせは原則として受け付けていません。

平日

午前9時より午後4時45分

土曜日

大学の
休業日

原則として取り扱いはしません

2

学生ポータルサイト (K-PORT) による伝達・連絡について

履修支援センターからの通知・連絡は、原則、K-PORTによって行いますので、毎日必ず確認してください。K-PORTへは大学ホームページ (<http://www.kinjo-u.ac.jp/>) のメニュー「在学生の方」からアクセスしてください。K-PORTでは個人に届くお知らせと、K-PORT内のLinkに掲載することでみなさんに情報をお知らせします。全体に関わる内容について（試験や在学生オリエンテーション等）はLinkに掲載します。イベントによって、イベント名のLinkがあるものとLink履修支援に掲載するものがあります。適宜、各Linkを確認してください。

また、K-PORTには連絡機能以外にも教務関係の重要な機能があります。主な機能については下記を参照してください。

● K-PORTでの連絡事項

【個人に届くお知らせ】

- ・履修科目の休講、補講、教室変更等
- ・個人向けのお知らせや呼び出し等

※個人に届くお知らせは、転送設定をすることで登録したアドレスにメールが届きます。

【Link履修支援に掲載されるお知らせ】

- ・授業に関わるお知らせ
- ・年度初めの行事予定について
- ・博士論文、修士論文について
- ・オリエンテーションについて
- ・集中講義日程
- ・各種印刷物データ（履修要覧）等

【その他Linkに掲載されるお知らせ】

- ・試験関係
- ・施設配置図
- ・修了予定者へのお知らせ
- ・修了予定者発表 等

● K-PORTの機能等

- ・履修登録
- ・シラバス確認
- ・成績確認
- ・時間割確認
- ・休講・補講確認
- ・時間割・教室利用検索
- ・連絡事項確認
- ・各種Link
- ・アンケート 等

※暴風警報発令等による休講措置など、全学生に向けた重要事項は、大学ホームページでお知らせします。



大学からの連絡ツール／K-PORTの機能について

K-PORT以外のツールでも重要なお知らせをすることがあります。大学からの情報提供やK-PORTの機能についての詳細は、本学発行の学生ハンドブック「Printemps（プランタン）」を参照してください。



K-PORTに掲載された内容についての質問等は窓口で受け付けます。電話、メールでの問い合わせには応じませんのでご注意ください。K-PORTで不具合が発生した場合、大学ホームページでお知らせします。K-PORT及び大学ホームページ「在学生の方」を確認しなかったことによる不利益や公示されたことに対する責任を免れることはできませんので、必ず確認してください。

3

諸届、願出について

諸届、願出等の提出期限が決められているものは、必ず期限内に提出しなければなりません。



提出の遅れたものについては、履修支援センターは一切受理しませんので、注意してください。

4

証明書等の発行について

欠席理由証明書、学外実習等出席証明書を除く証明書等の申込・発行については、「Printemps」を参考してください。

「Printemps」記載の証明書に係る窓口（申込み・受取り）は学生生活支援センターです。

大学院文学研究科

IV

文学研究科概要

文学研究科 行事予定

| 日 | 曜 | 回 | 4月 | 日 | 曜 | 回 | 5月 | 日 | 曜 | 回 | 6月 |
|----|---|---|---|----|---|---|--------------------------------|----|---|----|-------------------------------------|
| 1 | 木 | | 入学式 (10:00) | 1 | 土 | 4 | | 1 | 火 | 7 | |
| 2 | 金 | | 文学研究科履修登録開始 新入生オリエンテーション (9:30～10:00) 専攻別オリエンテーション (11:30～12:30) | 2 | 日 | | | 2 | 水 | 7 | |
| 3 | 土 | | 健康診断 | 3 | 月 | | 憲法記念日 | 3 | 木 | 8 | |
| 4 | 日 | | | 4 | 火 | | みどりの日 | 4 | 金 | 9 | |
| 5 | 月 | | 履修登録不可 | 5 | 水 | | こどもの日 | 5 | 土 | 9 | |
| 6 | 火 | | | 6 | 木 | 4 | ●研究計画書提出締切 【後期課程1年生】(15:30) | 6 | 日 | | |
| 7 | 水 | | 履修登録再開 | 7 | 金 | 5 | | 7 | 月 | 8 | |
| 8 | 木 | 1 | 前期授業開始 ●長期履修申請書締切【新入生】(15:30) ●研究計画書提出締切 【後期課程2・3年生】(15:30) ●学位申請修士論文題目届提出締切 【前期未終了予定者】(15:30) | 8 | 土 | 5 | | 8 | 火 | 8 | |
| 9 | 金 | 1 | | 10 | 月 | 4 | | 10 | 木 | 9 | |
| 10 | 土 | 1 | | 11 | 火 | 4 | | 11 | 金 | 10 | |
| 11 | 日 | | | 12 | 水 | 4 | | 12 | 土 | 10 | |
| 12 | 月 | 1 | | 13 | 木 | 5 | | 13 | 日 | | |
| 13 | 火 | 1 | | 14 | 金 | 6 | | 14 | 月 | 9 | |
| 14 | 水 | 1 | | 15 | 土 | 6 | | 15 | 火 | 9 | |
| 15 | 木 | 2 | | 16 | 日 | | | 16 | 水 | 9 | |
| 16 | 金 | 2 | 履修登録締切 (17:00) | 17 | 月 | 5 | | 17 | 木 | 10 | |
| 17 | 土 | 2 | | 18 | 火 | 5 | | 18 | 金 | 11 | |
| 18 | 日 | | | 19 | 水 | 5 | | 19 | 土 | 11 | |
| 19 | 月 | 2 | ●学位申請博士論文提出締切 【前期未修了予定者】(15:30) | 20 | 木 | 6 | | 20 | 日 | | |
| 20 | 火 | 2 | | 21 | 金 | 7 | | 21 | 月 | 10 | |
| 21 | 水 | 2 | | 22 | 土 | 7 | | 22 | 火 | 10 | |
| 22 | 木 | 3 | | 23 | 日 | | | 23 | 水 | 10 | |
| 23 | 金 | 3 | | 24 | 月 | 6 | | 24 | 木 | 11 | |
| 24 | 土 | 3 | | 25 | 火 | 6 | | 25 | 金 | 12 | |
| 25 | 日 | | | 26 | 水 | 6 | | 26 | 土 | 12 | |
| 26 | 月 | 3 | | 27 | 木 | 7 | | 27 | 日 | | |
| 27 | 火 | 3 | | 28 | 金 | 8 | | 28 | 月 | 11 | ●修士論文・特定課題提出締切 【前期未修了予定者】(15:30) |
| 28 | 水 | 3 | | 29 | 土 | 8 | | 29 | 火 | 11 | |
| 29 | 木 | | 昭和の日 | 30 | 日 | | | 30 | 水 | 11 | 後期研究生願・科目等履修願・ 聴講願締切 (15:30) |
| 30 | 金 | 4 | | 31 | 月 | 7 | | | | | |

| 日 | 曜 | 回 | 7月 | 日 | 曜 | 回 | 8月 | 日 | 曜 | 回 | 9月 |
|----|---|----|--------|----|---|----|--|----|---|---|---|
| 1 | 木 | 12 | | 1 | 日 | | | 1 | 水 | | |
| 2 | 金 | 13 | | 2 | 月 | 16 | | 2 | 木 | | |
| 3 | 土 | 13 | | 3 | 火 | 16 | | 3 | 金 | | |
| 4 | 日 | | | 4 | 水 | 16 | | 4 | 土 | | |
| 5 | 月 | 12 | | 5 | 木 | 16 | | 5 | 日 | | |
| 6 | 火 | 12 | | 6 | 金 | 16 | | 6 | 月 | | 集中講義 |
| 7 | 水 | 12 | | 7 | 土 | | 前期末修了学位論文・ 特定課題発表会実施期間 | 7 | 火 | | |
| 8 | 木 | 13 | | 8 | 日 | | 山の日 | 8 | 水 | | |
| 9 | 金 | 14 | | 9 | 月 | | 振替休日 前期追試験願締切 (15:30) | 9 | 木 | | |
| 10 | 土 | 14 | | 10 | 火 | | | 10 | 金 | | |
| 11 | 日 | | | 11 | 水 | | | 11 | 土 | | |
| 12 | 月 | 13 | | 12 | 木 | | | 12 | 日 | | |
| 13 | 火 | 13 | | 13 | 金 | | 一斉休業日 | 13 | 月 | | |
| 14 | 水 | 13 | | 14 | 土 | | | 14 | 火 | | |
| 15 | 木 | 14 | | 15 | 日 | | ▼ | 15 | 水 | | |
| 16 | 金 | 15 | | 16 | 月 | | | 16 | 木 | | |
| 17 | 土 | 15 | | 17 | 火 | | 前期追試験時間割発表 (10:00) | 17 | 金 | | 後期履修登録変更開始 |
| 18 | 日 | | | 18 | 水 | | | 18 | 土 | 1 | 後期授業開始 |
| 19 | 月 | 14 | | 19 | 木 | | | 19 | 日 | | |
| 20 | 火 | 14 | | 20 | 金 | | 追試験 | 20 | 月 | 1 | 敬老の日 (授業日) ●修士論文・特定課題研究計画書提出締切 【前期課程1年生】(15:30) |
| 21 | 水 | 14 | | 21 | 土 | | ▼ | 21 | 火 | 1 | |
| 22 | 木 | | 海の日 | 22 | 日 | | | 22 | 水 | 1 | |
| 23 | 金 | | スポーツの日 | 23 | 月 | | | 23 | 木 | 1 | 秋分の日 (授業日) |
| 24 | 土 | | 通常授業なし | 24 | 火 | | | 24 | 金 | 1 | |
| 25 | 日 | | | 25 | 水 | | | 25 | 土 | 2 | |
| 26 | 月 | 15 | | 26 | 木 | | | 26 | 日 | | |
| 27 | 火 | 15 | | 27 | 金 | | | 27 | 月 | 2 | |
| 28 | 水 | 15 | | 28 | 土 | | | 28 | 火 | 2 | 履修登録変更締切 (17:00) |
| 29 | 木 | 15 | 前期授業終了 | 29 | 日 | | | 29 | 水 | 2 | |
| 30 | 金 | | 予備日 | 30 | 月 | | | 30 | 木 | 2 | |
| 31 | 土 | 16 | 前期試験 | 31 | 火 | | 前期未修了予定者発表・前期未修了予定者成績単位修得通知表配付 (10:00) ●後期在学期間延長申請書締切 【後期課程】(15:30) | | | | |

| 日 | 曜 | 回 | 10月 | 日 | 曜 | 回 | 11月 | 日 | 曜 | 回 | 12月 |
|----|---|---|--|----|---|----|-------------|----|---|----|-----------|
| 1 | 金 | 2 | | 1 | 月 | 7 | | 1 | 水 | 10 | |
| 2 | 土 | 3 | | 2 | 火 | 7 | | 2 | 木 | 10 | |
| 3 | 日 | | | 3 | 水 | | 文化の日 | 3 | 金 | 9 | |
| 4 | 月 | 3 | | 4 | 木 | 6 | | 4 | 土 | 11 | |
| 5 | 火 | 3 | | 5 | 金 | 5 | | 5 | 日 | | |
| 6 | 水 | 3 | | 6 | 土 | 7 | | 6 | 月 | 12 | |
| 7 | 木 | 3 | | 7 | 日 | | | 7 | 火 | 11 | |
| 8 | 金 | 3 | ●学位申請博士論文題目届または学位申請博士論文延期報告書提出締切【後期課程学位申請予定者】(15:30) | 8 | 月 | 8 | | 8 | 水 | 11 | |
| 9 | 土 | 4 | | 9 | 火 | 8 | | 9 | 木 | 11 | |
| 10 | 日 | | | 10 | 水 | 7 | | 10 | 金 | 10 | |
| 11 | 月 | 4 | | 11 | 木 | 7 | | 11 | 土 | 12 | |
| 12 | 火 | 4 | | 12 | 金 | 6 | | 12 | 日 | | |
| 13 | 水 | 4 | | 13 | 土 | 8 | | 13 | 月 | 13 | |
| 14 | 木 | 4 | | 14 | 日 | | | 14 | 火 | 12 | |
| 15 | 金 | | 創立記念日 | 15 | 月 | 9 | | 15 | 水 | 12 | |
| 16 | 土 | 5 | | 16 | 火 | 9 | | 16 | 木 | 12 | 大学クリスマス礼拝 |
| 17 | 日 | | | 17 | 水 | 8 | | 17 | 金 | 11 | |
| 18 | 月 | 5 | | 18 | 木 | 8 | | 18 | 土 | 13 | |
| 19 | 火 | 5 | | 19 | 金 | 7 | | 19 | 日 | | |
| 20 | 水 | 5 | | 20 | 土 | 9 | | 20 | 月 | 14 | |
| 21 | 木 | | 大学祭（全学休校日） | 21 | 日 | | | 21 | 火 | 13 | |
| 22 | 金 | | | 22 | 月 | 10 | | 22 | 水 | 13 | |
| 23 | 土 | | | 23 | 火 | | 勤労感謝の日 | 23 | 木 | 13 | |
| 24 | 日 | | | 24 | 水 | 9 | | 24 | 金 | 12 | 冬期休暇前授業終了 |
| 25 | 月 | 6 | | 25 | 木 | 9 | | 25 | 土 | | クリスマス |
| 26 | 火 | 6 | | 26 | 金 | 8 | | 26 | 日 | | |
| 27 | 水 | 6 | | 27 | 土 | 10 | | 27 | 月 | | 一斉休業日 |
| 28 | 木 | 5 | | 28 | 日 | | | 28 | 火 | | |
| 29 | 金 | 4 | ●学位申請博士論文提出締切【後期課程学位申請者】(15:30) | 29 | 月 | 11 | クリスマスツリー点灯式 | 29 | 水 | | |
| 30 | 土 | 6 | | 30 | 火 | 10 | | 30 | 木 | | |
| 31 | 日 | | | | | | | 31 | 金 | | |

| 日 | 曜 | 回 | 1月 | 日 | 曜 | 2月 | 日 | 曜 | 3月 |
|----|---|----|--|----|---|---|----|---|----------------------------------|
| 1 | 土 | | 元日 | 1 | 火 | | 1 | 火 | 修了予定者発表 (10:00) |
| 2 | 日 | | | 2 | 水 | 後期追試験願締切 (15:30) | 2 | 水 | |
| 3 | 月 | | | 3 | 木 | | 3 | 木 | |
| 4 | 火 | | | 4 | 金 | | 4 | 金 | |
| 5 | 水 | | | 5 | 土 | | 5 | 土 | |
| 6 | 木 | 14 | 冬期休暇後授業再開 | 6 | 日 | | 6 | 日 | |
| 7 | 金 | 13 | | 7 | 月 | 集中講義 | 7 | 月 | |
| 8 | 土 | 14 | | 8 | 火 | 後期追試験時間割発表 (17:00) | 8 | 火 | 2022年度前期科目等履修願・ 聽講願締切 (15:30) |
| 9 | 日 | | | 9 | 水 | | 9 | 水 | |
| 10 | 月 | | 成人の日 | 10 | 木 | | 10 | 木 | |
| 11 | 火 | 14 | ●修士論文・特定課題、通訳活動報告書提出締切【前期課程修了予定者】(15:30) | 11 | 金 | 建国記念の日 | 11 | 金 | |
| 12 | 水 | 14 | | 12 | 土 | | 12 | 土 | |
| 13 | 木 | 15 | | 13 | 日 | | 13 | 日 | |
| 14 | 金 | 14 | | 14 | 月 | 追試験 学位論文・特定課題発表会実施期間 | 14 | 月 | |
| 15 | 土 | | 全学休講日 | 15 | 火 | | 15 | 火 | |
| 16 | 日 | | | 16 | 水 | | 16 | 水 | |
| 17 | 月 | 15 | | 17 | 木 | | 17 | 木 | |
| 18 | 火 | 15 | | 18 | 金 | ●2022年度研究生願、長期履修申請書（修業年月の変更を含む）、在学期間延長申請書締切【後期課程1年生】(15:30) | 18 | 金 | 学位記授与式 |
| 19 | 水 | 15 | | 19 | 土 | | 19 | 土 | |
| 20 | 木 | | 予備日 | 20 | 日 | | 20 | 日 | |
| 21 | 金 | 15 | ●研究経過報告書・研究主題論文概要提出締切【後期課程（学位を申請したものを除く）】(15:30) | 21 | 月 | | 21 | 月 | 春分の日 |
| 22 | 土 | 15 | 後期授業終了 | 22 | 火 | | 22 | 火 | |
| 23 | 日 | | | 23 | 水 | 天皇誕生日 | 23 | 水 | |
| 24 | 月 | 16 | 後期試験 | 24 | 木 | | 24 | 木 | |
| 25 | 火 | 16 | | 25 | 金 | ●通訳活動報告書提出締切【前期課程1年生】(15:30) | 25 | 金 | ●研究報告書提出締切【研究生】(15:30) |
| 26 | 水 | 16 | | 26 | 土 | | 26 | 土 | |
| 27 | 木 | 16 | | 27 | 日 | | 27 | 日 | |
| 28 | 金 | 16 | | 28 | 月 | | 28 | 月 | |
| 29 | 土 | 16 | | | | | 29 | 火 | |
| 30 | 日 | | | | | | 30 | 水 | |
| 31 | 月 | | | | | | 31 | 木 | |

教員組織

博士課程・後期課程

【国文学専攻】

准教授 内山 潤 (N3-305)
教授 小松 史生子 (N3-405)
教授 中川 美和 (N3-410)
教授 藤森 清 (N3-409)
教授 龍澤 彩 (N3-403)

【英文学専攻】

教授 楚輪 松人 (N3-505)
教授 高野 祐二 (N3-513)
教授 田村 章 (N3-503)
教授 水野 真木子 (N3-502)
教授 森田 順也 (N3-411)

【社会学専攻】

教授 朝倉 美江 (E1-523)
教授 岩崎 公弥子 (E1-417)
教授 王文亮 (E1-524)
教授 大山 小夜 (E1-515)
教授 小室 達章 (E1-423)

博士課程・前期課程

【国文学専攻】

准教授 内山 潤 (N3-305)
教授 桐原 健真 (N3-404)
教授 小松 史生子 (N3-405)
教授 中川 美和 (N3-410)
教授 藤森 清 (N3-409)
教授 龍澤 彩 (N3-403)

【英文学専攻】

教授 楚輪 松人 (N3-505)
教授 高野 祐二 (N3-513)
教授 種村 俊介 (N3-510)
教授 田村 章 (N3-503)
教授 馬場 今日子 (N3-512)
教授 水野 真木子 (N3-502)
教授 森田 順也 (N3-411)

【社会学専攻】

教授 朝倉 美江 (E1-523)
教授 岩崎 公弥子 (E1-417)
教授 王文亮 (E1-524)
教授 大橋 陽 (E1-401)
教授 大山 小夜 (E1-515)
教授 小室 達章 (E1-423)

主な役職者

文学研究科長 朝倉 美江
国文学専攻主任 中川 美和
英文学専攻主任 水野 真木子
社会学専攻主任 小室 達章

大学院実務助手 上條郷子 (E1-204 · E1-305)

授業科目配当表

文学研究科・前期課程・国文学専攻 2010年度以降の入学生に適用

| 科目区分 | 開講科目名 | 単位数 | 担当者 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備考 |
|---------|-------------------|-----|-------|----|----|----|----|
| 国文学関連科目 | 国文学特論Ⅰ(1) | 2 | 大井田晴彦 | 前期 | 月 | 3 | |
| | 国文学特論Ⅰ(2) | 2 | 大井田晴彦 | 後期 | 月 | 3 | |
| | 国文学特論Ⅱ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学特論Ⅱ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学特論Ⅲ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学特論Ⅲ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学特論Ⅳ(1) | 2 | 小松史生子 | 前期 | 水 | 3 | |
| | 国文学特論Ⅳ(2) | 2 | 小松史生子 | 後期 | 水 | 3 | |
| | 国文学特論Ⅴ(比較文学Ⅰ)(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学特論Ⅴ(比較文学Ⅰ)(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学特論Ⅵ(比較文学Ⅱ)(1) | 2 | 本田光子 | 前期 | 月 | 2 | |
| | 国文学特論Ⅵ(比較文学Ⅱ)(2) | 2 | 龍沢彩 | 後期 | 月 | 2 | |
| | 国文学演習Ⅰ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学演習Ⅰ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学演習Ⅱ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学演習Ⅱ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学演習Ⅲ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学演習Ⅲ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学演習Ⅳ(1) | 2 | 藤森清 | 前期 | 火 | 4 | |
| | 国文学演習Ⅳ(2) | 2 | 藤森清 | 後期 | 火 | 4 | |
| | 国文学演習Ⅴ(比較文学Ⅰ)(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学演習Ⅴ(比較文学Ⅰ)(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学演習Ⅵ(比較文学Ⅱ)(1) | 2 | 桐原健真 | 前期 | 火 | 1 | |
| | 国文学演習Ⅵ(比較文学Ⅱ)(2) | 2 | 桐原健真 | 後期 | 火 | 1 | |
| | 国文学特殊研究Ⅰ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学特殊研究Ⅰ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学特殊研究Ⅱ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学特殊研究Ⅱ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学特殊研究Ⅲ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学特殊研究Ⅲ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学特殊研究Ⅳ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学特殊研究Ⅳ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学特殊研究Ⅴ(比較文学)(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国文学特殊研究Ⅴ(比較文学)(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 中国文学特論(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 中国文学特論(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 中国文学演習(1) | 2 | 鶴飼尚代 | 前期 | 水 | 2 | |
| | 中国文学演習(2) | 2 | 鶴飼尚代 | 後期 | 水 | 2 | |

| 科目区分 | 開講科目名 | 単位数 | 担当者 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備考 |
|---------------|------------------|-----|-------|----|----|----|----|
| 国語学・日本語教育関連科目 | 国語学特論 I (1) | 2 | 中川 美和 | 前期 | 火 | 2 | |
| | 国語学特論 I (2) | 2 | 中川 美和 | 後期 | 火 | 2 | |
| | 国語学特論 II (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国語学特論 II (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国語学演習 I (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国語学演習 I (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国語学演習 II (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国語学演習 II (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国語学特殊研究 I (1) | 2 | 非開講 | | | | 隔年 |
| | 国語学特殊研究 I (2) | 2 | 非開講 | | | | 隔年 |
| | 国語学特殊研究 II (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国語学特殊研究 II (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育特論 I (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育特論 I (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育特論 II (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育特論 II (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育特論 III (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育特論 III (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育演習 I (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育演習 I (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育演習 II (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育演習 II (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育演習 III (1) | 2 | 内山 潤 | 前期 | 木 | 3 | |
| | 日本語教育演習 III (2) | 2 | 内山 潤 | 後期 | 木 | 3 | |
| | 日本語教育特殊研究 I (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育特殊研究 I (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育特殊研究 II (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育特殊研究 II (2) | 2 | 非開講 | | | | |

(注1) 前期課程においては、30単位以上修得する必要があります。

(注2) 他専攻及び他研究科の授業科目を履修し修得した単位は、10単位を超えない範囲で修了要件単位に算出することができます。

(注3) 修士論文または特定課題を2年次の終わりに提出する場合は、1年次において16単位以上修得する必要があります。

文学研究科・後期課程・国文学専攻 2010年度以降の入学生に適用

| 科目区分 | 開講科目名 | 単位数 | 担当者 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備 考 |
|-------------|---------------|-----|-------|-----|----|----|-----|
| 古典文学研究 | 古典文学特殊講義(1) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 古典文学特殊講義(2) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 古典文学特殊講義(3) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 古典文学特殊講義(4) | 4 | 本田 光子 | 前期 | 月 | 2 | |
| | | | 龍沢 彩 | 後期 | 月 | 2 | |
| | 古典文学演習(1年目) | 4 | 非開講 | | | | 1年目 |
| | 古典文学演習(2年目) | 4 | 非開講 | | | | 2年目 |
| | 古典文学演習(3年目) | 4 | 非開講 | | | | 3年目 |
| 近現代文学研究 | 近現代文学特殊講義(1) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 近現代文学特殊講義(2) | 4 | 小松史生子 | 通年 | 水 | 3 | |
| | 近現代文学特殊講義(3) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 近現代文学特殊講義(4) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 近 現 代 文 学 演 習 | 12 | 4 | 非開講 | | | 1年目 |
| | | | 4 | 非開講 | | | 2年目 |
| | | 4 | 小松史生子 | 通年 | 水 | 3 | 3年目 |
| | | 12 | 4 | 非開講 | | | 1年目 |
| | | | 4 | 非開講 | | | 2年目 |
| | | 4 | 藤森 清 | 通年 | 火 | 4 | 3年目 |
| 国語学・日本語教育研究 | 国語学特殊講義(1) | 4 | 中川 美和 | 通年 | 火 | 2 | |
| | 国語学特殊講義(2) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育特殊講義(1) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 日本語教育特殊講義(2) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 国語学・日本語教育演習 | 4 | 非開講 | | | | 1年目 |
| | | 4 | 非開講 | | | | 2年目 |
| | | 4 | 内山 潤 | 通年 | | | 3年目 |

(注1) 後期課程の演習科目については、原則同一教員の開講する演習を3年間履修して、計12単位修得する必要があります。

文学研究科・前期課程・英文学専攻 2010年度以降の入学生に適用

| 科目区分 | 開講科目名 | 単位数 | 担当者 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備考 |
|----------|---------------|-----|-------|----|----|----|----|
| 英米文学関連科目 | 英文学特論 I (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英文学特論 I (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英文学演習 I (1) | 2 | 楚輪 松人 | 前期 | 木 | 2 | |
| | 英文学演習 I (2) | 2 | 楚輪 松人 | 後期 | 木 | 2 | |
| | 英文学特論 II (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英文学特論 II (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英文学演習 II (1) | 2 | 田村 章 | 前期 | 金 | 4 | |
| | 英文学演習 II (2) | 2 | 田村 章 | 後期 | 金 | 4 | |
| | 英文学特論 III (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英文学特論 III (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英文学演習 III (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英文学演習 III (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英文学特論 IV (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英文学特論 IV (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英文学演習 IV (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英文学演習 IV (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 米文学特論 I (1) | 2 | 朴 琢英 | 前期 | 水 | 1 | |
| | 米文学特論 I (2) | 2 | 朴 琢英 | 後期 | 水 | 2 | |
| | 米文学演習 I (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 米文学演習 I (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| 英語学関連科目 | 英語学特論 II (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英語学特論 II (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英語学演習 I (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英語学演習 I (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英語学特論 II (1) | 2 | 森田 順也 | 前期 | 月 | 4 | |
| | 英語学特論 II (2) | 2 | 森田 順也 | 後期 | 月 | 4 | |
| | 英語学演習 II (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英語学演習 II (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英語学特論 III (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英語学特論 III (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英語学演習 III (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 英語学演習 III (2) | 2 | 非開講 | | | | |

| 科目区分 | 開講科目名 | | 単位数 | 担当者 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備考 |
|----------|---------------|---|-------|-----|----|----|-------|-------|
| 通訳関連科目 | 通訳特論 I (1) | 2 | 非開講 | | | | | オムニバス |
| | 通訳特論 I (2) | 2 | 非開講 | | | | | |
| | 通訳特論 II (1) | 2 | 水野真木子 | 前期 | 木 | 5 | | |
| | 通訳特論 II (2) | 2 | 水野真木子 | 後期 | 木 | 5 | オムニバス | |
| | | | 複数担当者 | | | | | |
| | 通訳演習 I (1) | 2 | 非開講 | | | | | |
| | 通訳演習 I (2) | 2 | 非開講 | | | | | |
| | 通訳演習 II (1) | 2 | 非開講 | | | | | |
| | 通訳演習 II (2) | 2 | 非開講 | | | | | |
| | 通訳演習 III (1) | 2 | 水野真木子 | 前期 | 月 | 2 | | |
| | 通訳演習 III (2) | 2 | 水野真木子 | 後期 | 月 | 2 | | |
| | 通訳演習 IV (1) | 2 | 水野真木子 | 前期 | 水 | 2 | | |
| | 通訳演習 IV (2) | 2 | 水野真木子 | 後期 | 水 | 2 | | |
| 英語教育関連科目 | 英語教育特論 I (1) | 2 | 非開講 | | | | | |
| | 英語教育特論 I (2) | 2 | 非開講 | | | | | |
| | 英語教育演習 I (1) | 2 | 種村俊介 | 前期 | 水 | 2 | | |
| | 英語教育演習 I (2) | 2 | 種村俊介 | 後期 | 水 | 2 | | |
| | 英語教育特論 II (1) | 2 | 馬場今日子 | 前期 | 木 | 4 | | |
| | 英語教育特論 II (2) | 2 | 馬場今日子 | 後期 | 木 | 4 | | |
| | 英語教育演習 II (1) | 2 | 非開講 | | | | | |
| | 英語教育演習 II (2) | 2 | 非開講 | | | | | |
| 特殊専門関連科目 | 特殊講義 I (1) | 2 | 非開講 | | | | | |
| | 特殊講義 I (2) | 2 | 非開講 | | | | | |
| | 特殊講義 II (1) | 2 | 非開講 | | | | | |
| | 特殊講義 II (2) | 2 | 非開講 | | | | | |
| | 特殊講義 III (1) | 2 | 非開講 | | | | | |
| | 特殊講義 III (2) | 2 | 非開講 | | | | | |

(注1) 前期課程においては、30単位以上修得する必要があります。

(注2) 他専攻及び他研究科の授業科目を履修し修得した単位は、14単位を超えない範囲で修了要件単位に算出することができます。

(注3) 修士論文または特定課題を2年次の終わりに提出する場合は、1年次において16単位以上修得する必要があります。

文学研究科・後期課程・英文学専攻 2010年度以降の入学生に適用

| 科目区分 | 開講科目名 | 単位数 | 担当者 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備 考 |
|-------|------------|-----|-------------|-------------------|----|----|-------------------|
| 英文学研究 | 英文学特殊講義(1) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 英文学特殊講義(2) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 英文学特殊講義(3) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 英文学特殊講義(4) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 英文学特殊講義(5) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 英文学特殊講義(6) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 英文学演習 | 12 | 4 4 4 | 非開講 非開講 非開講 | | | 1年目 2年目 3年目 |
| 言語学研究 | 言語学特殊講義(1) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 言語学特殊講義(2) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 言語学特殊講義(3) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 言語学特殊講義(4) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 言語学演習 | 12 | 4 4 4 | 非開講 非開講 非開講 | | | 1年目 2年目 3年目 |

(注1) 後期課程の演習科目については、原則同一教員の開講する演習を3年間履修して、計12単位修得する必要があります。

文学研究科・前期課程・社会学専攻 2010年度以降の入学生に適用

| 科目区分 | 開講科目名 | 単位数 | 担当者 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備考 |
|-----------|---------------|-----|-------|----|----|----|-------------|
| 基礎科目 | 社会学概論(1) | 2 | 小室 達章 | 前期 | 月 | 1 | 必修 オムニバス |
| | 社会学概論(2) | | 複数担当者 | | | | |
| | 社会学概論(2) | 2 | 時岡 新 | 後期 | 火 | 2 | 必修 |
| 国際社会論関連科目 | 国際社会論特殊講義Ⅰ(1) | 2 | 大山 小夜 | 前期 | 木 | 2 | |
| | 国際社会論特殊講義Ⅰ(2) | 2 | 大山 小夜 | 後期 | 木 | 2 | |
| | 国際社会論特殊講義Ⅱ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国際社会論特殊講義Ⅱ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国際社会論特殊講義Ⅲ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国際社会論特殊講義Ⅲ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国際社会論特殊講義Ⅳ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国際社会論特殊講義Ⅳ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国際社会論特殊講義Ⅴ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国際社会論特殊講義Ⅴ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国際社会論演習Ⅱ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国際社会論演習Ⅱ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国際社会論演習Ⅲ(1) | 2 | 大橋 陽 | 前期 | 木 | 3 | |
| | 国際社会論演習Ⅲ(2) | 2 | 大橋 陽 | 後期 | 木 | 3 | |
| | 国際社会論演習Ⅳ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国際社会論演習Ⅳ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国際社会論演習Ⅴ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 国際社会論演習Ⅴ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| 情報社会論関連科目 | 情報社会論特殊講義Ⅰ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論特殊講義Ⅰ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論特殊講義Ⅱ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論特殊講義Ⅱ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論特殊講義Ⅲ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論特殊講義Ⅲ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論特殊講義Ⅳ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論特殊講義Ⅳ(2) | 2 | 岩崎公弥子 | 後期 | 水 | 2 | |
| | 情報社会論特殊講義Ⅴ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論特殊講義Ⅴ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論演習Ⅰ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論演習Ⅰ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論演習Ⅱ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論演習Ⅱ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論演習Ⅲ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論演習Ⅲ(2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論演習Ⅳ(1) | 2 | 小室 達章 | 前期 | 月 | 3 | |
| | 情報社会論演習Ⅳ(2) | 2 | 小室 達章 | 後期 | 月 | 3 | |
| | 情報社会論演習Ⅴ(1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 情報社会論演習Ⅴ(2) | 2 | 非開講 | | | | |

| 科目区分 | 開講科目名 | 単位数 | 担当者 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備考 |
|-----------|----------------------------------|-----|------|----|----|----|------|
| 福祉社会論関連科目 | 福祉社会論 特殊講義 I (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 特殊講義 I (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 特殊講義 II (1) | 2 | 王文亮 | 前期 | 火 | 1 | |
| | 福祉社会論 特殊講義 II (2) | 2 | 王文亮 | 後期 | 火 | 1 | |
| | 福祉社会論 特殊講義 III (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 特殊講義 III (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 特殊講義 IV (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 特殊講義 IV (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 特殊講義 V (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 特殊講義 V (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 演習 I (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 演習 I (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 演習 II (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 演習 II (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 演習 III (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 演習 III (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 演習 IV (1) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 演習 IV (2) | 2 | 非開講 | | | | |
| | 福祉社会論 演習 V (1) | 2 | 朝倉美江 | 前期 | 木 | 1 | |
| | 福祉社会論 演習 V (2) | 2 | 朝倉美江 | 後期 | 木 | 1 | |
| 資格関連科目 | 社会調査演習 <多变量解析演習> | 2 | 非開講 | | | | 隔年開講 |
| | 国際社会論演習 I (1) <調査企画・設計に関する演習> | 2 | 非開講 | | | | 隔年開講 |
| | 国際社会論演習 I (2) <質的調査演習> | 2 | 非開講 | | | | 隔年開講 |

(注1) 前期課程においては、30単位以上修得する必要があります。

(注2) 他専攻及び他研究科の授業科目を履修し修得した単位は、14単位を超えない範囲で修了要件単位に算出することができます。

(注3) 修士論文または特定課題を2年次の終わりに提出する場合は、1年次において16単位以上修得する必要があります。

文学研究科・後期課程・社会学専攻 2010年度以降の入学生に適用

| 科目区分 | 開講科目名 | 単位数 | 担当者 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備 考 |
|-------------|---------------|-----|------|------|----|----|-----|
| 現代社会論関連講義科目 | 現代社会論 特殊講義(1) | 4 | 王文亮 | 通年 | 火 | 1 | |
| | 現代社会論 特殊講義(2) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 現代社会論 特殊講義(3) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 現代社会論 特殊講義(4) | 4 | 非開講 | | | | |
| | 現代社会論 特殊講義(5) | 4 | 小室達章 | 通年 | 月 | 3 | |
| | 現代社会論 特殊講義(6) | 4 | 非開講 | | | | |
| 現代社会論関連演習科目 | 現代社会論 演習(1) | 12 | 4 | 非開講 | | | 1年目 |
| | | | 4 | 非開講 | | | 2年目 |
| | | | 4 | 非開講 | | | 3年目 |
| | 現代社会論 演習(2) | 12 | 4 | 非開講 | | | 1年目 |
| | | | 4 | 非開講 | | | 2年目 |
| | | | 4 | 非開講 | | | 3年目 |
| | 現代社会論 演習(3) | 12 | 4 | 非開講 | | | 1年目 |
| | | | 4 | 非開講 | | | 2年目 |
| | | | 4 | 非開講 | | | 3年目 |
| | 現代社会論 演習(4) | 12 | 4 | 非開講 | | | 1年目 |
| | | | 4 | 非開講 | | | 2年目 |
| | | | 4 | 朝倉美江 | 通年 | 木 | 1 |
| | 現代社会論 演習(5) | 12 | 4 | 非開講 | | | 3年目 |
| | | | 4 | 大山小夜 | 通年 | 木 | 2 |
| | | | 4 | 非開講 | | | 3年目 |
| | 現代社会論 演習(6) | 12 | 4 | 非開講 | | | 1年目 |
| | | | 4 | 非開講 | | | 2年目 |
| | | | 4 | 非開講 | | | 3年目 |

(注1) 後期課程の演習科目については、原則同一教員の開講する演習を3年間履修して、計12単位修得する必要があります。

時間割表

2021年度 文学研究科 時間割表 【前期】－2010年度以降の入学生に適用－

| | | 国文学専攻 | | | 英文学専攻 | | | 社会学専攻 | | | | | |
|---|----|-------|-----------------------------------|------------------|-------|----|-------------|--------|----|-----|----------------------------------|----------------|----|
| | | 課程 | 授業科目名 | 担当者 | 通年 | 課程 | 授業科目名 | 担当者 | 通年 | 課程 | 授業科目名 | 担当者 | 通年 |
| 月 | 1限 | | | | | | | | | 前 | 社会学概論(1) | 小室 達章他 | |
| | 2限 | 前 後 | 国文学特論VI(比較文学II)(1) 古典文学特殊講義(4) | 本田 光子 本田 光子 | * | 前 | 通訳演習III(1) | 水野 真木子 | | | | | |
| | 3限 | 前 | 国文学特論I(1) | 大井田 晴彦 | | | | | | 前 後 | 情報社会論演習IV(1) 現代社会論特殊講義(5) | 小室 達章 小室 達章 | * |
| | 4限 | | | | | 前 | 英語学特論II(1) | 森田 順也 | | | | | |
| 火 | 1限 | 前 | 国文学演習VI(比較文学II)(1) | 桐原 健真 | | | | | | 前 後 | 福祉社会論特殊講義II(1) 現代社会論特殊講義(1) | 王 文亮 王 文亮 | * |
| | 2限 | 前 後 | 国語学特論I(1) 国語学特殊講義(1) | 中川 美和 中川 美和 | * | | | | | | | | |
| | 3限 | | | | | | | | | | | | |
| | 4限 | 前 後 | 国文学演習IV(1) 近現代文学演習(3年目) | 藤森 清 藤森 清 | * | | | | | | | | |
| 水 | 1限 | | | | | 前 | 米文学特論I(1) | 朴 琴英 | | | | | |
| | 2限 | 前 | 中国文学演習(1) | 鶴飼 尚代 | | 前 | 通訳演習IV(1) | 水野 真木子 | | | | | |
| | 3限 | 前 後 | 国文学特論IV(1) 近現代文学特殊講義(2) | 小松 史生子 小松 史生子 | * | 前 | 英語教育演習I(1) | 種村 俊介 | | | | | |
| | 4限 | | | | | | | | | | | | |
| 木 | 1限 | | | | | | | | | 前 後 | 福祉社会論演習V(1) 現代社会論演習(4)(3年目) | 朝倉 美江 朝倉 美江 | * |
| | 2限 | | | | | 前 | 英文学演習I(1) | 楚輪 松人 | | 前 後 | 国際社会論特殊講義I(1) 現代社会論演習(5)(2年目) | 大山 小夜 大山 小夜 | * |
| | 3限 | 前 後 | 日本語教育演習III(1) 国語学・日本語教育演習(3年目) | 内山 潤 内山 潤 | | | | | | 前 | 国際社会論演習III(1) | 大橋 陽 | |
| | 4限 | | | | | 前 | 英語教育特論II(1) | 馬場 今日子 | | | | | |
| | 5限 | | | | | 前 | 通訳特論II(1) | 水野 真木子 | | | | | |
| 金 | 1限 | | | | | | | | | | | | |
| | 2限 | | | | | | | | | | | | |
| | 3限 | | | | | | | | | | | | |
| | 4限 | | | | | 前 | 英文学演習II(1) | 田村 章 | | | | | |

■後期課程の演習科目については、原則同一教員の開講する演習を3年間履修して、計12単位修得する必要があります。

【集中講義】

前期課程

| 専攻 | 授業科目名 | 担当者 | 通年 | 実施日時 |
|----|-------|-----|----|------|
| | | | | |

【日付不定】

| 授業科目名 | 担当者 |
|-------|-----|
| | |

後期課程

| 専攻 | 授業科目名 | 担当者 | 通年 | 実施日時 |
|----|-------|-----|----|------|
| | | | | |

【時間割表の見方について】

○課程の欄に「前」とあれば前期課程開講科目、「後」とあれば後期課程開講科目であることを示します。

○通年の欄に*印の付いた科目は、通年科目です。

○上記日程は変更の可能性があります。K-PORTにてお知らせしますので各自確認してください。

2021年度 文学研究科時間割表 【後期】 —2010年度以降の入学生に適用—

| | | 国文学専攻 | | | | 英文学専攻 | | | | 社会学専攻 | | | | |
|---|----|---|----------------------------|-----|----|---|-------------------------|-----|----|--------------------------------------|----------------|-----|----|--|
| | | 課程 | 授業科目名 | 担当者 | 通年 | 課程 | 授業科目名 | 担当者 | 通年 | 課程 | 授業科目名 | 担当者 | 通年 | |
| 月 | 1限 | | | | | | | | | | | | | |
| | 2限 | 前 国文学特論Ⅵ（比較文学Ⅱ）（2） 後 古典文学特殊講義（4） | 龍澤 彩 龍澤 彩 | * | | 前 通訳演習Ⅲ（2） | 水野 真木子 | | | | | | | |
| | 3限 | 前 国文学特論Ⅰ（2） | 大井田 晴彦 | | | | | | | 前 情報社会論演習Ⅳ（2） 後 現代社会論特殊講義（5） | 小室 達章 小室 達章 | * | | |
| | 4限 | | | | | 前 英語学特論Ⅱ（2） | 森田 順也 | | | | | | | |
| 火 | 1限 | 前 国文学演習Ⅵ（比較文学Ⅱ）（2） | 桐原 健真 | | | | | | | 前 福祉社会論特殊講義Ⅱ（2） 後 現代社会論特殊講義（1） | 王 文亮 王 文亮 | * | | |
| | 2限 | 前 国語学特論Ⅰ（2） 後 国語学特殊講義（1） | 中川 美和 中川 美和 | * | | | | | | 前 社会学概論（2） | 時岡 新 | | | |
| | 3限 | | | | | | | | | | | | | |
| | 4限 | 前 国文学演習Ⅳ（2） 後 近現代文学演習（3年目） | 藤森 清 藤森 清 | * | | | | | | | | | | |
| 水 | 1限 | | | | | | | | | | | | | |
| | 2限 | 前 中国文学演習（2） | 鵜飼 尚代 | | | 前 通訳演習Ⅳ（2） 前 米文学特論Ⅰ（2） 前 英語教育演習Ⅰ（2） | 水野 真木子 朴 琴英 種村 俊介 | | | 前 情報社会論特殊講義Ⅳ（2） | 岩崎 公弥子 | | | |
| | 3限 | 前 国文学特論Ⅳ（2） 後 近現代文学特殊講義（2） 後 近現代文学演習（3年目） | 小松 史生子 小松 史生子 小松 史生子 | * | * | | | | | | | | | |
| | 4限 | | | | | | | | | | | | | |
| 木 | 1限 | | | | | | | | | 前 福祉社会論演習Ⅴ（2） 後 現代社会論演習（4）（3年目） | 朝倉 美江 朝倉 美江 | * | | |
| | 2限 | | | | | 前 英文学演習Ⅰ（2） | 楚輪 松人 | | | 前 国際社会論特殊講義Ⅰ（2） 後 現代社会論演習（5）（2年目） | 大山 小夜 大山 小夜 | * | | |
| | 3限 | 前 日本語教育演習Ⅲ（2） 後 国語学・日本語教育演習（3年目） | 内山 潤 内山 潤 | | | | | | | 前 国際社会論演習Ⅲ（2） | 大橋 陽 | | | |
| | 4限 | | | | | 前 英語教育特論Ⅱ（2） | 馬場 今日子 | | | | | | | |
| | 5限 | | | | | 前 通訳特論Ⅱ（2） | 水野 真木子他 | | | | | | | |
| 金 | 1限 | | | | | | | | | | | | | |
| | 2限 | | | | | | | | | | | | | |
| | 3限 | | | | | | | | | | | | | |
| | 4限 | | | | | 前 英文学演習Ⅱ（2） | 田村 章 | | | | | | | |

■後期課程の演習科目については、原則同一教員の開講する演習を3年間履修して、計12単位修得する必要があります。

【集中講義】

前期課程

| 専攻 | 授業科目名 | 担当者 | 通年 | 実施日時 |
|----|-------|-----|----|------|
| | | | | |

【日付不定】

| 授業科目名 | 担当者 |
|-------|-----|
| | |

後期課程

| 専攻 | 授業科目名 | 担当者 | 通年 | 実施日時 |
|----|-------|-----|----|------|
| | | | | |

【時間割表の見方について】

○課程の欄に「前」とあれば前期課程開講科目、「後」とあれば後期課程開講科目であることを示します。

○通年の欄に＊印の付いた科目は、通年科目です。

○上記日程は変更の可能性があります。K-PORTにてお知らせしますので各自確認してください。

博士課程・前期課程修了資格（学位規程による）

- (1) 前期課程に2年以上在学しなければならない。
- (2) 前期課程において30単位以上修得しなければならない。
- (3) 修士論文又は専攻が指定する特定の課題の研究成果（以下「特定課題」という。）を提出し、最終試験に合格しなければならない。

◆ 修士論文又は特定課題

- ① 修士論文又は特定課題を2年次の終わりに提出する者は、1年次において16単位以上を修得しなければならない。
- ② 修士論文又は特定課題を提出する者は、所定の日までに題目を選び専攻主任教授に届け出なければならない。
- ③ 修士論文は、主論文（正本・副本各1通）特定課題は、主要課題又はそれに関する研究成果報告書（正本・副本各1通）を所定の期日までに研究科長に提出しなければならない。必要によっては参考論文を添付することができる。

◆ 最終試験

- ① 試験は、論文又は特定課題の審査が終わった後に筆記又は口頭で行う。
- ② 試験は、論文の内容を中心として学識と研究能力について審査する。

(4) 学位取り消しについて

次に示す各号に該当した場合は、研究科委員会の議を経て授与した学位を取り消すものとする。

- ① 不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき。
- ② 学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があったとき。

博士課程・後期課程修了資格

（学位規程及び金城学院大学大学院文学研究科（課程博士）審査規程による）

- (1) 後期課程の第3学年に在学し、授業科目につき16単位以上を修得見込みで、所定の要件を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた者。ただし、特に優れた研究業績を挙げた者については、第1学年 在学以上とすることができる。
- (2) 授業科目につき16単位以上を修得し、所定の要件を満たし、引き続き後期課程の第3学年に在籍し、かつ、必要な研究指導を受けた者。ただし、後期課程入学後6年（在学中の休学期間を除く。）以内の者。
- (3) 博士論文を提出し、最終試験に合格しなければならない。

◆ 博士論文

- ① 博士論文を提出しようとする者は、研究科の定める指導要綱に従い単位を修得し、研究指導を受け、学位論文提出資格の認定を受けなければならない。
- ② 博士論文を提出しようとする者は、所定の日までに学位申請（博士）論文題目届を提出しなければならない。
- ③ 課程博士の学位を申請しようとする者は、次に掲げる書類を、研究科長に提出しなければならない。

| | | | | | |
|---------------|-------|----|---------|-------|----|
| ・学位申請書 | | 1部 | ・論文目録 | | 4部 |
| ・学位申請論文 | | 4部 | ・履歴書 | | 4部 |
| ・申請論文の要旨 | | 4部 | ・研究業績目録 | | 4部 |
| ・参考論文（必要ある場合） | | 4部 | | | |

◆論文の審査及び学位

- ① 論文の審査は、論文を受理したときから、1年以内に終了するものとする。
 - ② 学位試験は、論文審査が終わった後に口頭で行う。
 - ③ 学位試験は、論文の内容及び研究者として自立して研究活動を行うに必要な学識と能力について審査する。
- (4) 学位取り消しについて
- 次に示す各号に該当した場合は、研究科委員会の議決を経て授与した学位を取り消すものとする。
- ① 不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき。
 - ② 学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があったとき。
- (5) 博士課程・後期課程単位取得満期退学について
- 博士課程・後期課程単位取得満期退学とは、各専攻の後期課程に3年以上在籍した学生が所定の単位を取得し、かつ、必要な研究指導を受けたものをいう。また、博士課程・後期課程単位取得満期退学者は、その認定の証明書の交付を受けることができる。

指導教員について

(1) 前期課程

前期課程では、毎年度初めに指導教員及び副指導教員が指定されます。指導教員、副指導教員の指導のもとで研究及び修士論文の作成を進めてください。なお、修士論文研究計画書の提出後に、その内容に基づいて指導教員あるいは副指導教員が変更されることがあります。

(2) 後期課程

後期課程では、毎年度初めに指導教員1名、副指導教員1名が指定されます。指導教員、副指導教員の指導のもとで研究及び博士論文の作成を進めてください。

資格取得について

■中学校及び高等学校教諭専修免許状取得について

(1) 基礎資格

中学校教諭1種免許状、高等学校教諭1種免許状の所有資格を有する者で、修士の学位を有するか、大学院に1年以上在学し、30単位以上修得しなければなりません。

(2) 免許状の種類と履修

前期課程で取得できる免許状及びその履修資格は、表1のとおりです。

(3) 免許状取得に必要な単位数

高等学校教諭または中学校教諭の専修免許状を取得する者は、前期課程の各専攻で開設する授業科目のうち、表2（国文学専攻）、表3（英文学専攻）に掲げる科目から24単位以上修得しなければなりません。

(4) 教育職員免許状授与申請

免許状申請資格を有する者には、愛知県教育委員会へ申請することにより、教育職員免許状が授与されます。在学生については大学で一括して申請を行っています。（ただし、免許状申請資格を有する者で修士修了予定者に限定されます。）

申請のために必要な書類に関することは、修了年次の9月頃にK-PORT（学生ポータルサイト）をもって連絡します。

表1 取得できる専修免許状と履修資格

| 専 攻 | 取得できる免許状の種類 | 履 修 資 格 |
|-------|---|---|
| 国文学専攻 | 高等学校教諭専修免許状（国語） 中学校教諭専修免許状（国語） | 高等学校教諭1種免許状（国語）取得済み 中学校教諭1種免許状（国語）取得済み |
| 英文学専攻 | 高等学校教諭専修免許状（外国語「英語」） 中学校教諭専修免許状（外国語「英語」） | 高等学校教諭1種免許状（外国語「英語」）取得済み 中学校教諭1種免許状（外国語「英語」）取得済み |

表2 国文学専攻

教科に関する科目

(2018年度の入学生に適用)

| 課程 | 授 業 科 目 名 | 単位 |
|---------|--------------------|----|
| 国文学関連科目 | 国文学特論Ⅲ(1) | 2 |
| | 国文学特論Ⅲ(2) | 2 |
| | 国文学特論Ⅳ(1) | 2 |
| | 国文学特論Ⅳ(2) | 2 |
| | 国文学特論V(比較文学I)(1) | 2 |
| | 国文学特論V(比較文学I)(2) | 2 |
| | 国文学特論VI(比較文学II)(1) | 2 |
| | 国文学特論VI(比較文学II)(2) | 2 |
| | 国文学演習Ⅲ(1) | 2 |
| | 国文学演習Ⅲ(2) | 2 |
| | 国文学演習IV(1) | 2 |
| | 国文学演習IV(2) | 2 |
| | 国文学演習V(比較文学I)(1) | 2 |
| | 国文学演習V(比較文学I)(2) | 2 |
| | 国文学演習VI(比較文学II)(1) | 2 |
| | 国文学演習VI(比較文学II)(2) | 2 |
| | 国語学特論I(1) | 2 |
| | 国語学特論I(2) | 2 |
| 前期課程 | 国語学特論II(1) | 2 |
| | 国語学特論II(2) | 2 |
| | 国語学演習I(1) | 2 |
| | 国語学演習I(2) | 2 |
| | 国語学演習II(1) | 2 |
| | 国語学演習II(2) | 2 |
| | 日本語教育特論I(1) | 2 |
| | 日本語教育特論I(2) | 2 |
| | 日本語教育特論II(1) | 2 |
| | 日本語教育特論II(2) | 2 |
| | 日本語教育特論III(1) | 2 |
| | 日本語教育特論III(2) | 2 |
| | 日本語教育演習I(1) | 2 |
| | 日本語教育演習I(2) | 2 |
| | 日本語教育演習II(1) | 2 |
| | 日本語教育演習II(2) | 2 |
| | 日本語教育演習III(1) | 2 |
| | 日本語教育演習III(2) | 2 |

大学が独自に設定する科目

教科及び教科の指導法に関する科目

(2019・2020年度の入学生に適用)

| 課程 | 授 業 科 目 名 | 単位 |
|---------|--------------------|----|
| 国文学関連科目 | 国文学特論Ⅲ(1) | 2 |
| | 国文学特論Ⅲ(2) | 2 |
| | 国文学特論Ⅳ(1) | 2 |
| | 国文学特論Ⅳ(2) | 2 |
| | 国文学特論V(比較文学I)(1) | 2 |
| | 国文学特論V(比較文学I)(2) | 2 |
| | 国文学特論VI(比較文学II)(1) | 2 |
| | 国文学特論VI(比較文学II)(2) | 2 |
| | 国文学演習Ⅲ(1) | 2 |
| | 国文学演習Ⅲ(2) | 2 |
| | 国文学演習IV(1) | 2 |
| | 国文学演習IV(2) | 2 |
| | 国文学演習V(比較文学I)(1) | 2 |
| | 国文学演習V(比較文学I)(2) | 2 |
| | 国文学演習VI(比較文学II)(1) | 2 |
| | 国文学演習VI(比較文学II)(2) | 2 |
| | 国語学特論I(1) | 2 |
| | 国語学特論I(2) | 2 |
| 前期課程 | 国語学特論II(1) | 2 |
| | 国語学特論II(2) | 2 |
| | 国語学演習I(1) | 2 |
| | 国語学演習I(2) | 2 |
| | 国語学演習II(1) | 2 |
| | 国語学演習II(2) | 2 |
| | 日本語教育特論I(1) | 2 |
| | 日本語教育特論I(2) | 2 |
| | 日本語教育特論II(1) | 2 |
| | 日本語教育特論II(2) | 2 |
| | 日本語教育特論III(1) | 2 |
| | 日本語教育特論III(2) | 2 |
| | 日本語教育演習I(1) | 2 |
| | 日本語教育演習I(2) | 2 |
| | 日本語教育演習II(1) | 2 |
| | 日本語教育演習II(2) | 2 |
| | 日本語教育演習III(1) | 2 |
| | 日本語教育演習III(2) | 2 |

大学が独自に設定する科目

教科及び教科の指導法に関する科目

(2021年度以降の入学生に適用)

| 課程 | 授業科目名 | 単位 |
|-----------------|------------------------|----|
| 国文学関連科目 前期課程 | 国文学特論 I (1) | 2 |
| | 国文学特論 I (2) | 2 |
| | 国文学特論 II (1) | 2 |
| | 国文学特論 II (2) | 2 |
| | 国文学特論 III (1) | 2 |
| | 国文学特論 III (2) | 2 |
| | 国文学特論 IV (1) | 2 |
| | 国文学特論 IV (2) | 2 |
| | 国文学特論 V (比較文学 I) (1) | 2 |
| | 国文学特論 V (比較文学 I) (2) | 2 |
| | 国文学特論 VI (比較文学 II) (1) | 2 |
| | 国文学特論 VI (比較文学 II) (2) | 2 |
| | 国文学演習 I (1) | 2 |
| | 国文学演習 I (2) | 2 |
| | 国文学演習 II (1) | 2 |
| | 国文学演習 II (2) | 2 |
| | 国文学演習 III (1) | 2 |
| | 国文学演習 III (2) | 2 |
| | 国文学演習 IV (1) | 2 |
| | 国文学演習 IV (2) | 2 |
| | 国文学演習 V (比較文学 I) (1) | 2 |
| | 国文学演習 V (比較文学 I) (2) | 2 |
| | 国文学演習 VI (比較文学 II) (1) | 2 |
| | 国文学演習 VI (比較文学 II) (2) | 2 |
| | 国文学特殊研究 I (1) | 2 |
| | 国文学特殊研究 I (2) | 2 |
| | 国文学特殊研究 II (1) | 2 |
| | 国文学特殊研究 II (2) | 2 |
| | 国文学特殊研究 III (1) | 2 |
| | 国文学特殊研究 III (2) | 2 |
| | 国文学特殊研究 IV (1) | 2 |
| | 国文学特殊研究 IV (2) | 2 |
| | 国文学特殊研究 V (比較文学) (1) | 2 |
| | 国文学特殊研究 V (比較文学) (2) | 2 |
| | 中国文学特論 (1) | 2 |
| | 中国文学特論 (2) | 2 |
| | 中国文学演習 (1) | 2 |
| | 中国文学演習 (2) | 2 |

| 課程 | 授業科目名 | 単位 |
|-----------------------|-----------------|----|
| 国語学・日本語教育関連科目 前期課程 | 国語学特論 I (1) | 2 |
| | 国語学特論 I (2) | 2 |
| | 国語学特論 II (1) | 2 |
| | 国語学特論 II (2) | 2 |
| | 国語学演習 I (1) | 2 |
| | 国語学演習 I (2) | 2 |
| | 国語学演習 II (1) | 2 |
| | 国語学演習 II (2) | 2 |
| | 国語学特殊研究 I (1) | 2 |
| | 国語学特殊研究 I (2) | 2 |
| | 国語学特殊研究 II (1) | 2 |
| | 国語学特殊研究 II (2) | 2 |
| | 日本語教育特論 I (1) | 2 |
| | 日本語教育特論 I (2) | 2 |
| | 日本語教育特論 II (1) | 2 |
| | 日本語教育特論 II (2) | 2 |
| | 日本語教育特論 III (1) | 2 |
| | 日本語教育特論 III (2) | 2 |
| | 日本語教育演習 I (1) | 2 |
| | 日本語教育演習 I (2) | 2 |
| | 日本語教育演習 II (1) | 2 |
| | 日本語教育演習 II (2) | 2 |
| | 日本語教育演習 III (1) | 2 |
| | 日本語教育演習 III (2) | 2 |
| | 日本語教育特殊研究 I (1) | 2 |
| | 日本語教育特殊研究 I (2) | 2 |

表3 英文学専攻

教科に関する科目

(2018年度の入学生に適用)

| 課程 | 授業科目名 | 単位 |
|----------------------|---------------|----|
| 英米文学関連科目 前期課程 | 英文学特論 I (1) | 2 |
| | 英文学特論 I (2) | 2 |
| | 英文学演習 I (1) | 2 |
| | 英文学演習 I (2) | 2 |
| | 英文学特論 II (1) | 2 |
| | 英文学特論 II (2) | 2 |
| | 英文学演習 II (1) | 2 |
| | 英文学演習 II (2) | 2 |
| | 米文学特論 I (1) | 2 |
| | 米文学特論 I (2) | 2 |
| | 米文学演習 I (1) | 2 |
| | 米文学演習 I (2) | 2 |
| | 英語学特論 I (1) | 2 |
| | 英語学特論 I (2) | 2 |
| | 英語学演習 I (1) | 2 |
| 英語学関連科目 前期課程 | 英語学演習 I (2) | 2 |
| | 英語学特論 II (1) | 2 |
| | 英語学特論 II (2) | 2 |
| | 英語学演習 II (1) | 2 |
| | 英語学演習 II (2) | 2 |
| | 通訳特論 I (1) | 2 |
| | 通訳特論 I (2) | 2 |
| | 通訳特論 II (1) | 2 |
| 通訳関連科目 前期課程 | 通訳特論 II (2) | 2 |
| | 通訳演習 I (1) | 2 |
| | 通訳演習 I (2) | 2 |
| | 通訳演習 III (1) | 2 |
| | 通訳演習 III (2) | 2 |
| | 英語教育特論 I (1) | 2 |
| | 英語教育特論 I (2) | 2 |
| | 英語教育演習 I (1) | 2 |
| 英語教育関連科目 前期課程 | 英語教育演習 I (2) | 2 |
| | 英語教育特論 II (1) | 2 |
| | 英語教育特論 II (2) | 2 |
| | 英語教育演習 II (1) | 2 |
| | 英語教育演習 II (2) | 2 |

大学が独自に設定する科目

教科及び教科の指導法に関する科目

(2019年度以降の入学生に適用)

| 課程 | 授業科目名 | 単位 |
|----------------------|---------------|----|
| 英米文学関連科目 前期課程 | 英文学特論 I (1) | 2 |
| | 英文学特論 I (2) | 2 |
| | 英文学演習 I (1) | 2 |
| | 英文学演習 I (2) | 2 |
| | 英文学特論 II (1) | 2 |
| | 英文学特論 II (2) | 2 |
| | 英文学演習 II (1) | 2 |
| | 英文学演習 II (2) | 2 |
| | 米文学特論 I (1) | 2 |
| | 米文学特論 I (2) | 2 |
| | 米文学演習 I (1) | 2 |
| | 米文学演習 I (2) | 2 |
| | 英語学特論 I (1) | 2 |
| | 英語学特論 I (2) | 2 |
| | 英語学演習 I (1) | 2 |
| 英語学関連科目 前期課程 | 英語学演習 I (2) | 2 |
| | 英語学特論 II (1) | 2 |
| | 英語学特論 II (2) | 2 |
| | 英語学演習 II (1) | 2 |
| | 英語学演習 II (2) | 2 |
| | 通訳特論 I (1) | 2 |
| | 通訳特論 I (2) | 2 |
| | 通訳特論 II (1) | 2 |
| 通訳関連科目 前期課程 | 通訳特論 II (2) | 2 |
| | 通訳演習 I (1) | 2 |
| | 通訳演習 I (2) | 2 |
| | 通訳演習 III (1) | 2 |
| | 通訳演習 III (2) | 2 |
| | 英語教育特論 I (1) | 2 |
| | 英語教育特論 I (2) | 2 |
| | 英語教育演習 I (1) | 2 |
| 英語教育関連科目 前期課程 | 英語教育演習 I (2) | 2 |
| | 英語教育特論 II (1) | 2 |
| | 英語教育特論 II (2) | 2 |
| | 英語教育演習 II (1) | 2 |
| | 英語教育演習 II (2) | 2 |

■ 「専門社会調査士」について

1. 「専門社会調査士」とは

社会調査の資格には、「社会調査士」と「専門社会調査士」の2種類があります。アンケートやインタビューなどを用いて、世論、市場動向、社会事象等をとらえる能力があることを認定する制度で、取得者は「社会を読み解く専門家」と言われています。例えば、以下の分野に関心のある方におすすめです。

- ・ マスコミで世論調査やドキュメンタリー制作などに携わりたい。
- ・ 企業の商品開発部門などで市場調査を手がけたい。
- ・ 自治体に勤めて、住民のニーズを把握できるようになりたい。

専門社会調査士の資格を得るためにには、原則、次の4項目を全て満たさねばなりません。

- (1) 社会調査士の資格を有すること。

※有していない場合でも、専門社会調査士資格を取得する際、同時に申請することも可能です。

- (2) 本学で、標準カリキュラムH～Jに対応した授業科目単位を取得していること。

- (3) 社会調査結果を用いた研究論文（修士論文を含む）を執筆すること。

- (4) 修士課程を修了していること。

※すでに修士課程を終えた場合でも専門社会調査士資格は申請できます。

なお、本学で社会調査士は、「国際情報学部国際情報学科」「人間科学部多元心理学科」が取得を支援しています。

2. 資格認定機関

「一般社団法人 社会調査協会」です。その前身である「社会調査士資格認定機構」は、2003年、日本社会学会、日本行動計量学会、日本教育社会学会を母胎として発足しました。

3. 資格取得に関する科目

原則として、社会調査士の資格を取得した上で、以下のH～Jに対応する、本学の開設授業科目の単位を修得する必要があります。

| 資格認定機関が定める科目区分等 | | | 左記に対応する開設授業科目及び単位数 | | | |
|-----------------|----|---------|--------------------|-----|---------------|-----|
| 区分 | 単位 | 科目説明 | 奇数年度 | | 偶数年度 | |
| H | 2 | 調査企画・設計 | 国際社会論特殊講義Ⅳ(1) | 2単位 | 国際社会論演習 I (1) | 2単位 |
| I | 2 | 多変量解析 | | | 社会調査演習 | 2単位 |
| J | 2 | 質的調査 | 国際社会論特殊講義Ⅳ(2) | 2単位 | 国際社会論演習 I (2) | 2単位 |

※上記科目はいずれも前期課程が開設する科目です。

※後期課程生は、通常授業科目での履修ではなく、科目等履修生制度を利用した単位修得となります。

詳細は金城学院大学ホームページもしくは履修支援センターまでお問い合わせください。

4. 資格取得に要する費用

審査・認定手数料

社会調査士の資格を→取得している：33,000円（税込）

→取得していない：44,000円（税込）

※振込用紙のコピーを申請書裏面に貼付し、本学の所定の窓口に提出します。

<参考> 一般社団法人 社会調査協会 公式サイト <http://jasr.or.jp/>

文学研究科履修規程

(1997年10月9日制定)

最終改正 2016年9月15日

(目的)

第1条 この規程は、金城学院大学大学院学則（以下、「学則」という。）第14条に基づき、金城学院大学大学院文学研究科（以下「本研究科」という。）の授業科目等の履修方法に関する規定を定める。

(授業科目及び単位数)

第2条 本研究科各専攻の授業科目及び単位数は、金城学院大学大学院学則の別表のとおりとする。

(前期課程の指導教員)

第3条 学生は、指定された指導教員及び副指導教員のもとで研究し、修士論文又は専攻が指定する特定の課題の研究成果（以下「特定課題」という。）の作成をするものとする。

2 前項の指導教員及び副指導教員は、毎年度初めに学生の研究分野に応じて、各専攻の推薦を経て、研究科委員会が承認する。なお、修士論文研究計画書又は特定課題研究計画書の受理後、その内容に基づく各専攻の協議及び研究科委員会の承認を経て、変更することがある。

3 前項にかかわらず、学生の親族で2親等以内の者を指導教員及び副指導教員とすることはできない。

(前期課程の履修方法)

第4条 学生は、2年以上在学し、30単位以上を修得し、修士論文又は特定課題を提出するものとする。

2 2年次の終わりに修士論文又は特定課題を提出しようとする者は、1年次において16単位以上を修得しなければならない。

3 長期履修学生は、修士論文又は特定課題を提出しようとする前年度までに16単位以上を修得しなければならない。

4 学則第15条第1項～第3項に基づき修得した単位は、学則第15条第4項の規定により修得した単位とあわせて、国文学専攻においては10単位、英文学専攻及び社会学専攻においては14単位を超えない範囲で修了に要する単位に算入することができる。

(前期課程の研究計画等)

第5条 1年次学生は、所定の期日までに、修士論文研究計画書又は特定課題研究計画書を学生支援部履修支援センターに提出するものとする。

(後期課程の指導教員)

第6条 学生は、指定された指導教員及び副指導教員のもとで、研究及び博士論文等の作成をするものとする。

2 前項の指導教員及び副指導教員は、毎年度初めに学生の研究分野に応じて、各専攻の推薦を経て、研究科委員会が承認する。

3 前項にかかわらず、学生の親族で2親等以内の者を指導教員及び副指導教員とすることはできない。

(後期課程の履修方法)

第7条 学生は、3年以上在学し、16単位以上を修得し、博士論文を提出するものとする。

2 上記修得単位（16単位）のうち12単位は、原則として同一教員の開講する演習を3年間履修し、修得するものとする。

(後期課程の研究計画等)

第8条 学生は、毎年度所定の期日に所定の用紙に記した研究計画書を、指導教員の指導を受けて学生支援部履修支援センターに提出するものとする。

2 学生は、毎年度所定の期日までに、所定の用紙に記した研究経過報告書を指導教員の承認を得て、学生支援部履修支援センターに提出するものとする。

3 学生は、毎年度所定の期日までに、研究主題に関する論文を指導教員に提出するものとする。また、所定の用紙に記したその概要を指導教員の承認を得て、学生支援部履修支援センターに提出するものとする。

4 長期履修学生は、前項に定める論文及び概要を、指導教員が指定する年度の所定の期日までに提出するものとする。

5 学生は、1年に1回以上、もしくは在学期間に内に3回以上の研究発表を行うものとする。

(各種資格に係る授業科目の履修方法)

第9条 各種資格取得のために必要な授業科目及び単位の修得方法は、当該取得資格の課程表において示すところによる。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、本研究科委員会の決議に基づき、これを行う。

附 則 (一部省略)

附 則 (2016年9月15日文学研究科委員会)

この規程は、2017年4月1日から施行する。

文学研究科 ディプロマ・ポリシー

〔1〕博士課程前期課程 国文学専攻

文学研究科博士課程前期課程国文学専攻では、国文学・国語学・日本語教育に関する高度な専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・技能

- (1) 国文学・国語学・日本語教育の各専門領域において、体系的な専門知識を身につけている。
- (2) 各専門領域において、広範で深い知識を獲得する技能を身につけている。

2. 思考力・実践力

- (3) 国文学・国語学・日本語教育の各専門領域において、研究対象に対する明晰な分析、批評、実証的な解明を行う能力を身につけている。
- (4) 各専門領域において、理論に基づく実践的研究や、研究活動を積極的に遂行する能力を身につけている。

3. コミュニケーション力

- (5) 国文学・国語学・日本語教育の各専門領域において、研究成果を主体的に発信し、論理的かつ明確に説明する表現力を身につけている。
- (6) 各専門領域において、高度な表現力および専門知識を総合的に活用して、研究成果を社会に還元できる能力を身につけている。

〔2〕博士課程前期課程 英文学専攻

文学研究科博士課程前期課程英文学専攻では、英米文学、英語学、英語教育、通訳学に関する高度な専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・技能

- (1) 英米文学、英語学、英語教育、通訳学の各専門領域において、体系的な専門知識を身につけている。
- (2) 各専門領域において、広範で深い知識を獲得する技能を身につけている。

2. 思考力・実践力

- (3) 英米文学、英語学、英語教育、通訳学の各専門領域において、研究対象に対する明晰な分析、批評、実証的な解明を行う能力を身につけている。
- (4) 各専門領域において、理論に基づく実践的研究や、研究活動を積極的に遂行する能力を身につけている。

3. コミュニケーション力

- (5) 英米文学、英語学、英語教育、通訳学の各専門領域において、論理的かつ明確に説明する表現力、および研究成果を主体的に発信する能力を身につけている。
- (6) 各専門領域において、高度な表現力および英語力を総合的に活用して、英語教育や通訳を含めた社会の様々な現場で活躍できる能力を身につけている。

〔3〕博士課程前期課程 社会学専攻

文学研究科博士課程前期課程社会学専攻では、国際社会学、情報社会学、福祉社会学に関する高度な専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・技能

- (1) 国際社会学、情報社会学、福祉社会学の各専門領域において、体系的な専門知識を身につけている。
- (2) 国際社会学、情報社会学、福祉社会学の各専門領域において、広範で深い知識を獲得する技能を身につけている。

2. 思考力・実践力

- (3) 国際社会学、情報社会学、福祉社会学の各専門領域において、研究対象に対する明晰な分析、批評、実証的な解明を行う能力を身につけている。
- (4) 国際社会学、情報社会学、福祉社会学の各専門領域において、理論に基づく実践的研究や、社会調査を基盤とした研究活動を積極的に遂行する能力を身につけている。

3. コミュニケーション力

- (5) 国際社会学、情報社会学、福祉社会学の各専門領域において、研究成果を主体的に発信し、論理的かつ明確に説明する表現力を身につけている。

- (6) 国際社会学、情報社会学、福祉社会学の各専門領域において、社会調査の技法および高度な表現力を総合的に活用して、国際、情報、福祉の現場で活躍できる能力を身につけている。

[4] 博士課程後期課程 国文学専攻

文学研究科博士課程後期課程国文学専攻では、国文学・国語学・日本語教育に関する高度な専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・技能

- (1) 国文学・国語学・日本語教育の領域において、広範かつ深い専門的知識を有する。
- (2) 各専門領域において、主体的に研究課題を構想し、緻密な論考、実証により独創的な研究を進める技能を身につけている。

2. 思考力・実践力

- (3) 国文学・国語学・日本語教育の領域において、研究対象について深く理解し、個々の研究課題に関する、独創的で学術的な意義のある学位論文を作成する能力を身につけている。
- (4) 各専門領域において、積極的に学会発表や学会誌への論文の投稿を行って、学会に貢献できる。

3. コミュニケーション力

- (5) 国文学・国語学・日本語教育の領域における諸問題を高度の学術的立場から解明し、効果的に発表することにより、研究成果を社会に還元できる能力を身につけている。

[5] 博士課程後期課程 英文学専攻

文学研究科博士課程後期課程英文学専攻では、英米文学または言語学に関する高度な専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・技能

- (1) 英米文学または言語学の領域において、広範かつ深い専門的知識を有する。
- (2) 各専門領域において、主体的に研究課題を構想し、緻密な論考、実証により独創的な研究を進める技能を身につけている。

2. 思考力・実践力

- (3) 英米文学または言語学の領域において、研究対象の学術的発展について深く理解し、個々の研究課題について学術的に意義があり、独創性のある学位論文を作成する能力を身につけている。
- (4) 各専門領域において、積極的に学会発表や学会誌への論文の投稿を行って、学会に貢献できる。

3. コミュニケーション力

- (5) 英米文学または言語学の領域において、主体的に学会発表および学会誌への論文の投稿を行い、知見を効果的、説得的に表明する能力を身につけている。

[6] 博士課程後期課程 社会学専攻

文学研究科博士課程後期課程社会学専攻では、国際社会学、情報社会学、福祉社会学など、現代社会に特有な社会的動向および課題を分析する現代社会学に関する高度な専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・技能

- (1) 現代社会学の領域において、広範かつ深い専門的知識を有する。
- (2) 現代社会の動向および課題について、主体的に研究課題を構想し、緻密な論考、実証により独創的な研究を進める技能を身につけている。

2. 思考力・実践力

- (3) 現代社会学の領域において、研究対象の学術的発展について深く理解し、個々の研究課題について学術的に意義があり、独創性のある学位論文を作成する能力を身につけている。
- (4) 現代社会学の領域において、積極的に学会発表や学会誌への論文の投稿を行って、学会に貢献できる。

3. コミュニケーション力

- (5) 現代社会学の領域において、主体的に学会発表および学会誌への論文の投稿を行い、知見を効果的、説得的に表明する能力を身につけている。

文学研究科 カリキュラム・ポリシー

〔1〕博士課程前期課程 国文学専攻

文学研究科博士課程前期課程国文学専攻では、2つの専門領域に分けて、各領域で不可欠な専門教育科目を体系的に配置します。

教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 国文学の領域では、学生が専門知識を広く深く究め、明晰な分析、批評ができるように、「国文学関連科目」として「国文学特論」「国文学特論（比較文学）」「国文学演習」「国文学演習（比較文学）」「国文学特殊研究」「国文学特殊研究（比較文学）」「中国文学特論」「中国文学演習」を設置します。
- (2) 国語学・日本語教育の領域では、学生が自立的に研究できる能力を涵養するため、「国語学・日本語教育関連科目」として「国語学特論」「国語学演習」「国語学特殊研究」「日本語教育特論」「日本語教育演習」「日本語教育特殊研究」を設置します。

2. 教育方法

- (3) 各専門教育科目において、講義と演習の両方式により教育します。また、テーマの選択、先行研究の批判的分析、提案・実証の提示といった、研究指導を行います。

3. 評価

- (4) 本専攻では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらを総合的に活用する力を確実に身につけられたかを、個々の教員が適正に評価します。

〔2〕博士課程前期課程 英文学専攻

文学研究科博士課程前期課程英文学専攻では、専門領域を英米文学、英語学、英語教育、通訳学の4つに分け、各領域で不可欠な専門教育科目を体系的に配置します。

教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 英米文学の領域では、学生が専門知識を広く深く究め、明晰な分析、批評ができるように、「英米文学関連科目」として「英文学特論」、「英文学演習」、「米文学特論」、「米文学演習」、および「特殊関連専門科目」として「特殊講義」を設置します。
- (2) 英語学の領域では、学生が言語のメカニズムについて理論的、実証的な解明ができるように、「英語学関連科目」として「英語学特論」、「英語学演習」、および「特殊関連専門科目」として「特殊講義」を設置します。
- (3) 英語教育の領域では、学生が英語教育の理論と英語学修の実践的研究ができるように、「英語教育関連科目」として「英語教育特論」、「英語教育演習」、および「特殊関連専門科目」として「特殊講義」を設置します。
- (4) 通訳学の領域では、学生が通訳に必要な専門知識と高度な通訳技術を身につけることができるよう、「通訳関連科目」として「通訳特論」、「通訳演習」、および「特殊関連専門科目」として「特殊講義」を設置します。

2. 教育方法

- (5) 各専門教育科目において、講義と演習の両方式により教育します。また、テーマの選択、先行研究の批判的分析、提案・実証の提示といった、研究指導を行います。

3. 評価

- (6) 本専攻では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらを総合的に活用する力を確実に身につけられたかを、個々の教員が適正に評価します。

〔3〕博士課程前期課程 社会学専攻

文学研究科博士課程前期課程社会学専攻では、国際社会学、情報社会学、福祉社会学の各専門領域の基盤となる「基礎科目」、3つの「専門領域に関連する科目」、社会調査の「資格に関連する科目」を設置し、各領域で不可欠な専門教育科目を体系的に配置します。

教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 国際社会学、情報社会学、福祉社会学の各専門領域の基盤となる「基礎科目」として、「社会学概論(1)」「社会学概論(2)」を設置します。
- (2) 国際社会学の領域では、学生が国際社会の動向・課題について理論的、実証的な解説ができるように、「国際社会論関連科目」として「国際社会論特殊講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」および「国際社会論演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」を設置します。
- (3) 情報社会学の領域では、学生が情報社会の動向・課題について理論的、実証的な解説ができるように、「情報社会論関連科目」として「情報社会論特殊講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」および「情報社会論演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」を設置します。
- (4) 福祉社会学の領域では、学生が福祉社会の動向・課題について理論的、実証的な解説ができるように、「福祉社会論関連科目」として「福祉社会論特殊講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」および「福祉社会論演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」を設置します。
- (5) 国際社会学、情報社会学、福祉社会学の各専門領域において、社会調査の技法および高度な表現力を総合的に活用するための社会調査士の「資格関連科目」として、「社会調査演習」および「国際社会論演習Ⅰ（調査企画・設計に関する演習、質的調査演習）」を設置します。

2. 教育方法

- (6) 国際社会学、情報社会学、福祉社会学の各専門教育科目において、講義と演習の両方式により教育します。また、テーマの選択、先行研究の批判的分析、提案・実証の提示といった、研究指導を行います。

3. 評価

- (7) 本専攻では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらを総合的に活用する力を確実に身につけられたかを、個々の教員が適正に評価します。

[4] 博士課程後期課程 国文学専攻

文学研究科博士課程後期課程国文学専攻では、3つの専門領域に分けて、各領域で不可欠な専門教育科目を体系的に配置します。

教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 古典文学研究の領域において、学生が広範かつ深い専門的知識を持って独創的な研究を進められるように、「古典文学特殊講義」「古典文学演習」を設置します。
- (2) 近現代文学研究の領域において、学生が学術的に有意義で独創的な学位論文を作成することができるよう、「近現代文学特殊講義」「近現代文学演習」を設置します。
- (3) 国語学・日本語教育研究の領域において、学生が学術的に有意義で独創的な学位論文を作成することができるよう、「国語学特殊講義」「日本語教育特殊講義」「国語学・日本語教育演習」を設置します。

2. 教育方法

- (4) 各専門教育科目において、講義と演習の両方式により教育します。
- (5) 学生が研究成果を効果的、説得的に表明することができるよう、学位論文の作成や学会発表論文作成の過程で、主指導教員及び副指導教員を置き、指導を行います。

3. 評価

- (6) 本専攻では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらを総合的に活用する力を確実に身につけられたかを、個々の教員が適正に評価します。

[5] 博士課程後期課程 英文学専攻

文学研究科博士課程後期課程英文学専攻では、専門領域を英米文学、言語学の2つに分け、各領域で不可欠な専門教育科目を体系的に配置します。

教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 英米文学または言語学の領域において、学生が広範かつ深い専門的知識を持って独創的な研究を進められるよう、「英文学特殊講義」、「言語学特殊講義」を設置します。
- (2) 英米文学または言語学の領域において、学生が学術的に有意義で独創的な学位論文を作成することができるよう、「英文学演習」、「言語学演習」を設置します。

2. 教育方法

- (3) 各専門教育科目において、講義と演習の両方式により教育します。
- (4) 学生が研究成果を効果的、説得的に表明することができるよう、学位論文の作成や学会発表論文作成の過程で、主指導教員および副指導教員による指導を行います。

3. 評価

- (5) 本専攻では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらを総合的に活用する力を確実に身につけられたかを、個々の教員が適正に評価します。

[6] 博士課程後期課程 社会学専攻

文学研究科博士課程後期課程社会学専攻では、現代社会学において不可欠な専門教育科目を体系的に配置します。

教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 現代社会学の領域において、学生が広範かつ深い専門的知識を持って独創的な研究を進めることができるように、「現代社会論特殊講義」を設置します。
- (2) 現代社会学の領域において、学生が学術的に有意義で独創的な学位論文を作成することができるよう、「現代社会論演習」を設置します。

2. 教育方法

- (3) 専門教育科目において、講義と演習の両方式により教育します。
- (4) 学生が研究成果を効果的、説得的に表明することができるよう、学位論文の作成や学会発表論文作成の過程で、主指導教員及び副指導教員を置き、指導を行います。

3. 評価

- (5) 本専攻では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらを総合的に活用する力を確実に身につけられたかを、個々の教員が適正に評価します。

大学院人間生活学研究科

V

人間生活学研究科概要

人間生活学研究科 行事予定

| 日 | 曜 | 回 | 4月 | 日 | 曜 | 回 | 5月 | 日 | 曜 | 回 | 6月 | |
|------|---|---|--|----|---|---|---|-----------------|---|----|------------------------------------|--|
| 3/31 | 水 | | 在学生オリエンテーション(15:00) 履修登録開始【在学生】 | 1 | 土 | 4 | | 1 | 火 | 7 | 博士論文・修士論文予備審査～11日(金) 【前期末修了予定者】 | |
| 1 | 木 | | 入学式(13:30) | 2 | 日 | | | 2 | 水 | 7 | * | |
| 2 | 金 | | 新入生オリエンテーション(9:10～11:30) 専攻別オリエンテーション(13:30～16:00) 指導教員決定・履修登録開始【新入生】 | 3 | 月 | | 憲法記念日 | 3 | 木 | 8 | | |
| 3 | 土 | | 健康診断 | 4 | 火 | | みどりの日 | 4 | 金 | 9 | | |
| 4 | 日 | | | 5 | 水 | | こどもの日 | 5 | 土 | 9 | | |
| 5 | 月 | | 履修登録不可 | 6 | 木 | 4 | 博士論文予備審査願・論文題目届配付～14日(金) 【前期末修了予定者】、修士論文予備審査願配付～14日(金) 【前期末修了予定者】 | 6 | 日 | | | |
| 6 | 火 | | 履修登録不可 | 7 | 金 | 5 | | 7 | 月 | 8 | | |
| 7 | 水 | | 履修登録再開 | 8 | 土 | 5 | | 8 | 火 | 8 | | |
| 8 | 木 | 1 | 前期授業開始 長期履修申請書締切(15:30)【新入生】 研究計画書配付【後期課程1～3年生(前 期末修了予定者を除く)】 博士論文執筆計画書配付～19日(月)【前 期末修了予定者】 | 9 | 日 | | | 9 | 水 | 8 | | |
| | | | | 10 | 月 | 4 | | 10 | 木 | 9 | | |
| 9 | 金 | 1 | | 11 | 火 | 4 | | 11 | 金 | 10 | | |
| 10 | 土 | 1 | | 12 | 水 | 4 | | 12 | 土 | 10 | | |
| 11 | 日 | | | 13 | 木 | 5 | | 13 | 日 | | | |
| 12 | 月 | 1 | | 14 | 金 | 6 | 博士論文予備審査願・論文題目届または博士論 文提出延期報告書締切(15:30)【前期末修了予 定者】、修士論文予備審査願・論文題目変更届締 切(15:30)【前期末修了予定者】 | 14 | 月 | 9 | 研究計画書配付～18日(金) 【前后期課程1年生】 | |
| 13 | 火 | 1 | | 15 | 土 | 6 | | 15 | 火 | 9 | | |
| 14 | 水 | 1 | | 16 | 日 | | | 16 | 水 | 9 | | |
| 15 | 木 | 2 | | 17 | 月 | 5 | | 17 | 木 | 10 | | |
| 16 | 金 | 2 | 履修登録締切(17:00) | 18 | 火 | 5 | | 18 | 金 | 11 | | |
| 17 | 土 | 2 | | 19 | 水 | 5 | | 19 | 土 | 11 | | |
| 18 | 日 | | | 20 | 木 | 6 | | 20 | 日 | | | |
| 19 | 月 | 2 | 博士論文執筆計画書締切(15:30) 【前期末修了予定者】 | 21 | 金 | 7 | 研究計画書締切(15:30)【後期課程 1～3年生(前期末修了予定者を除く)】 | 21 | 月 | 10 | | |
| 20 | 火 | 2 | | 22 | 土 | 7 | | 22 | 火 | 10 | | |
| 21 | 水 | 2 | | 23 | 日 | | | 23 | 水 | 10 | | |
| 22 | 木 | 3 | | 24 | 月 | 6 | | 24 | 木 | 11 | | |
| 23 | 金 | 3 | | 25 | 火 | 6 | | 25 | 金 | 12 | | |
| 24 | 土 | 3 | | 26 | 水 | 6 | | 26 | 土 | 12 | | |
| 25 | 日 | | | 27 | 木 | 7 | | 27 | 日 | | | |
| 26 | 月 | 3 | | 28 | 金 | 8 | | 28 | 月 | 11 | | |
| 27 | 火 | 3 | | 29 | 土 | 8 | | 29 | 火 | 11 | | |
| 28 | 水 | 3 | | 30 | 日 | | | 30 | 水 | 11 | 後期研究生願・科目等履修願・聴 講願締切(15:30) | |
| 29 | 木 | | 昭和の日 | 31 | 月 | 7 | | *参考：授業開始後8週間最終日 | | | | |
| 30 | 金 | 4 | | | | | | — 46 — | | | | |

| 日 | 曜 | 回 | 7月 | 日 | 曜 | 回 | 8月 | 日 | 曜 | 回 | 9月 |
|----|---|----|--------------------------------------|----|---|----|---|----|---|---|--|
| 1 | 木 | 12 | | 1 | 日 | | | 1 | 水 | | |
| 2 | 金 | 13 | 博士論文・修士論文・論文題目変更届締切(15:30)【前期末修了予定者】 | 2 | 月 | 16 | | 2 | 木 | | |
| 3 | 土 | 13 | | 3 | 火 | 16 | | 3 | 金 | | |
| 4 | 日 | | | 4 | 水 | 16 | | 4 | 土 | | |
| 5 | 月 | 12 | 博士論文・修士論文審査～16日(金) 【前期末修了予定者】 | 5 | 木 | 16 | | 5 | 日 | | |
| 6 | 火 | 12 | | 6 | 金 | 16 | ↓ | 6 | 月 | | 集中講義 |
| 7 | 水 | 12 | | 7 | 土 | | | 7 | 火 | | |
| 8 | 木 | 13 | | 8 | 日 | | 山の日 | 8 | 水 | | |
| 9 | 金 | 14 | | 9 | 月 | | 振替休日 前期追試験願締切(15:30) | 9 | 木 | | |
| 10 | 土 | 14 | | 10 | 火 | | 博士論文発表会 学位審査【後期課程・前期末修了予定者】 | 10 | 金 | | |
| 11 | 日 | | | 11 | 水 | | | 11 | 土 | | |
| 12 | 月 | 13 | | 12 | 木 | | | 12 | 日 | | |
| 13 | 火 | 13 | | 13 | 金 | | 一斉休業日 | 13 | 月 | | |
| 14 | 水 | 13 | | 14 | 土 | | | 14 | 火 | | |
| 15 | 木 | 14 | | 15 | 日 | | ↓ | 15 | 水 | | |
| 16 | 金 | 15 | | 16 | 月 | | | 16 | 木 | | |
| 17 | 土 | 15 | | 17 | 火 | | 前期追試験時間割発表(10:00) | 17 | 金 | | 院生集会・後期在学生オリエンテーション(15:30) 学位記授与【前期末修了予定者】 後期履修登録変更開始 |
| 18 | 日 | | | 18 | 水 | | | 18 | 土 | 1 | 後期授業開始 |
| 19 | 月 | 14 | | 19 | 木 | | | 19 | 日 | | |
| 20 | 火 | 14 | | 20 | 金 | | 追試験 | 20 | 月 | 1 | 敬老の日(授業日) 博士論文執筆計画書締切(15:30) 【後期課程3年生(学位申請予定者)】 修士論文研究計画書締切(15:30) 【前期課程1年生】 |
| 21 | 水 | 14 | | 21 | 土 | | ↓ | | | | |
| 22 | 木 | | 海の日 | 22 | 日 | | | 21 | 火 | 1 | |
| 23 | 金 | | スポーツの日 | 23 | 月 | | | 22 | 水 | 1 | |
| 24 | 土 | | 通常授業なし | 24 | 火 | | | 23 | 木 | 1 | 秋分の日(授業日) |
| 25 | 日 | | | 25 | 水 | | | 24 | 金 | 1 | |
| 26 | 月 | 15 | | 26 | 木 | | | 25 | 土 | 2 | |
| 27 | 火 | 15 | | 27 | 金 | | | 26 | 日 | | |
| 28 | 水 | 15 | | 28 | 土 | | | 27 | 月 | 2 | |
| 29 | 木 | 15 | 前期授業終了 | 29 | 日 | | | 28 | 火 | 2 | 履修登録変更締切(17:00) |
| 30 | 金 | | 予備日 | 30 | 月 | | | 29 | 水 | 2 | |
| 31 | 土 | 16 | 前期試験 | 31 | 火 | | 前期末修了予定者発表(10:00) 成績単位修得通知表配付【前期末修了予定者】 後期在学期延長申請書締切(15:30)【後期課程】 | 30 | 木 | 2 | 博士論文予備審査願・論文題目届配付～10/8(金) 修士論文予備審査願配付～10/8(金) |

| 日 | 曜 | 回 | 10月 | 日 | 曜 | 回 | 11月 | 日 | 曜 | 回 | 12月 |
|----|---|---|--|-----------------|---|----|--------------------------|----|---|----|-----------|
| 1 | 金 | 2 | | 1 | 月 | 7 | 博士論文・修士論文予備審査 ～19日(金) | 1 | 水 | 10 | |
| 2 | 土 | 3 | | 2 | 火 | 7 | | 2 | 木 | 10 | |
| 3 | 日 | | | 3 | 水 | | 文化の日 | 3 | 金 | 9 | |
| 4 | 月 | 3 | | 4 | 木 | 6 | | 4 | 土 | 11 | |
| 5 | 火 | 3 | | 5 | 金 | 5 | | 5 | 日 | | |
| 6 | 水 | 3 | | 6 | 土 | 7 | | 6 | 月 | 12 | |
| 7 | 木 | 3 | | 7 | 日 | | | 7 | 火 | 11 | |
| 8 | 金 | 3 | 博士論文予備審査願・論文題目届または 博士論文提出延期報告書締切(15:30) 修士論文予備審査願・論文題目変更届締切(15:30) | 8 | 月 | 8 | | 8 | 水 | 11 | |
| 9 | 土 | 4 | | 9 | 火 | 8 | | 9 | 木 | 11 | |
| 10 | 日 | | | 10 | 水 | 7 | | 10 | 金 | 10 | |
| 11 | 月 | 4 | | 11 | 木 | 7 | | 11 | 土 | 12 | |
| 12 | 火 | 4 | | 12 | 金 | 6 | * | 12 | 日 | | |
| 13 | 水 | 4 | | 13 | 土 | 8 | | 13 | 月 | 13 | |
| 14 | 木 | 4 | | 14 | 日 | | | 14 | 火 | 12 | |
| 15 | 金 | | 創立記念日 | 15 | 月 | 9 | | 15 | 水 | 12 | |
| 16 | 土 | 5 | | 16 | 火 | 9 | | 16 | 木 | 12 | 大学クリスマス礼拝 |
| 17 | 日 | | | 17 | 水 | 8 | | 17 | 金 | 11 | |
| 18 | 月 | 5 | | 18 | 木 | 8 | | 18 | 土 | 13 | |
| 19 | 火 | 5 | | 19 | 金 | 7 | | 19 | 日 | | |
| 20 | 水 | 5 | | 20 | 土 | 9 | | 20 | 月 | 14 | |
| 21 | 木 | | 大学祭 | 21 | 日 | | | 21 | 火 | 13 | |
| 22 | 金 | | | 22 | 月 | 10 | | 22 | 水 | 13 | |
| 23 | 土 | | ↓ 博士論文・修士論文中間発表会 | 23 | 火 | | 勤労感謝の日 | 23 | 木 | 13 | |
| 24 | 日 | | | 24 | 水 | 9 | | 24 | 金 | 12 | 冬期休暇前授業終了 |
| 25 | 月 | 6 | | 25 | 木 | 9 | | 25 | 土 | | クリスマス |
| 26 | 火 | 6 | | 26 | 金 | 8 | | 26 | 日 | | |
| 27 | 水 | 6 | | 27 | 土 | 10 | | 27 | 月 | | 一斉休業日 |
| 28 | 木 | 5 | | 28 | 日 | | | 28 | 火 | | |
| 29 | 金 | 4 | | 29 | 月 | 11 | クリスマスツリー点灯式 | 29 | 水 | | |
| 30 | 土 | 6 | | 30 | 火 | 10 | | 30 | 木 | | |
| 31 | 日 | | | *参考：授業開始後8週間最終日 | | | | 31 | 金 | | |

| 日 | 曜 | 回 | 1月 | 日 | 曜 | 2月 | 日 | 曜 | 3月 |
|----|---|----|---------------------------------|----|---|---|----|---|-----------------------------|
| 1 | 土 | | 元日 | 1 | 火 | | 1 | 火 | 修了予定者発表(10:00) |
| 2 | 日 | | | 2 | 水 | 後期追試験願締切(15:30) | 2 | 水 | 修士論文発表会 |
| 3 | 月 | | | 3 | 木 | | 3 | 木 | |
| 4 | 火 | | | 4 | 金 | | 4 | 金 | |
| 5 | 水 | | | 5 | 土 | | 5 | 土 | |
| 6 | 木 | 14 | 冬期休暇後授業再開 | 6 | 日 | | 6 | 日 | |
| 7 | 金 | 13 | | 7 | 月 | 集中講義 | 7 | 月 | |
| 8 | 土 | 14 | | 8 | 火 | 後期追試験時間割発表(17:00) | 8 | 火 | 2022年度前期科目等履修願・聴講願締切(15:30) |
| 9 | 日 | | | 9 | 水 | | 9 | 水 | |
| 10 | 月 | | 成人の日 | 10 | 木 | | 10 | 木 | |
| 11 | 火 | 14 | | 11 | 金 | 建国記念の日 | 11 | 金 | |
| 12 | 水 | 14 | | 12 | 土 | | 12 | 土 | |
| 13 | 木 | 15 | | 13 | 日 | | 13 | 日 | |
| 14 | 金 | 14 | 博士論文・修士論文・論文題目変更届締切(15:30) | 14 | 月 | 追試験 博士論文発表会 | 14 | 月 | |
| 15 | 土 | | 全学休講日(予定) | 15 | 火 | ↓ 学位審査【後期課程】 | 15 | 火 | |
| 16 | 日 | | | 16 | 水 | | 16 | 水 | |
| 17 | 月 | 15 | 博士論文・修士論文審査 ～2/10(木) | 17 | 木 | | 17 | 木 | |
| 18 | 火 | 15 | | 18 | 金 | 2022年度研究生願・長期履修申請書(修業年限の変更を含む)、在学期間延長申請書【後期課程】締切(15:30) | 18 | 金 | 学位記授与式 |
| 19 | 水 | 15 | | 19 | 土 | | 19 | 土 | |
| 20 | 木 | | 予備日 | 20 | 日 | | 20 | 日 | |
| 21 | 金 | 15 | 研究経過報告書締切(15:30) 【後期課程1～3年生】 | 21 | 月 | | 21 | 月 | 春分の日 |
| 22 | 土 | 15 | 後期授業終了 | 22 | 火 | | 22 | 火 | |
| 23 | 日 | | | 23 | 水 | 天皇誕生日 | 23 | 水 | |
| 24 | 月 | 16 | 後期試験 | 24 | 木 | | 24 | 木 | |
| 25 | 火 | 16 | | 25 | 金 | | 25 | 金 | |
| 26 | 水 | 16 | | 26 | 土 | | 26 | 土 | |
| 27 | 木 | 16 | | 27 | 日 | | 27 | 日 | |
| 28 | 金 | 16 | | 28 | 月 | | 28 | 月 | |
| 29 | 土 | 16 | | | | | 29 | 火 | |
| 30 | 日 | | | | | | 30 | 水 | |
| 31 | 月 | | | | | | 31 | 木 | |

教員組織

博士課程・後期課程

【人間生活学専攻】

教授 青山 喜久子 (W3-503)
教授 上野 顕子 (W3-528)
教授 川瀬 正裕 (E1-519)
教授 北折 充隆 (E1-511)
教授 北森 一哉 (W3-504)

教授 篠原 康郎 (W1-424)
教授 日野知証 (W1-422)
教授 丸山智美 (W3-526)
教授 宮坂靖子 (W3-512)
教授 渡辺恭子 (E1-512)

博士課程・前期課程

【消費者科学専攻】

教授 青山 喜久子 (W3-503)
教授 綱岡 克雄 (W1-215)
准教授 石田 淳子 (W3-510)
教授 上野 顕子 (W3-528)
教授 加藤 悠介 (W3-507)
准教授 岸 和廣 (W3-508)
教授 北森 一哉 (W3-504)
教授 古寺 浩 (W3-513)
教授 篠原 康郎 (W1-424)
准教授 薗田 邦博 (W3-511)
教授 内藤 久雄 (W3-531)
准教授 長嶋 直子 (W3-506)
教授 永津 明人 (W1-412)
教授 日野知証 (W1-422)
教授 平林由果 (W3-533)
教授 丸山智美 (W3-502)
教授 宮坂靖子 (W3-512)
教授 吉川昌江 (W1-222)
准教授 吉田耕治 (W1-415)

【人間発達学専攻】

教授 石津和子 (E1-514)
教授 今村友木子 (E1-516)
教授 加藤大樹 (E1-521)
教授 川瀬正裕 (E1-519)
教授 北折充隆 (E1-511)
教授 定松美幸 (E1-518)
教授 仁里文美 (E1-536)
教授 原田琢也 (E1-504)
准教授 治田哲之 (E1-503)
准教授 二村彩 (E1-520)
教授 南元子 (E1-429)
講師 三宅英典 (E1-505)
教授 渡辺恭子 (E1-512)

主な役職者

人間生活学研究科長 日野知証
人間生活学専攻主任 青山喜久子
消費者科学専攻主任 平林由果
人間発達学専攻主任 加藤大樹
教務担当 平林由果
学生担当 上野顕子

大学院実務助手 上條郷子 (E1-204 · E1-305)

授業科目配当表

人間生活学研究科・前期課程・消費者科学専攻

2010年度以降の入学生に適用

| 授業科目 | | 単位数 | 担当者 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備考 |
|----------------------|-----------|-------|-------|----|----|----|----------------|
| 共通科目 | 人間生活学研究法Ⅰ | 2 | 古賀 佳樹 | 前期 | 金 | 5 | |
| | 人間生活学研究法Ⅱ | 2 | 非開講 | | | | 学部「情報リテラシー」と合併 |
| | 人間生活学研究法Ⅲ | 2 | 非開講 | | | | |
| 消費生活特論Ⅰ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 消費生活特論Ⅱ | 2 | 小田奈緒美 | 後期 | 金 | 3 | | |
| 消費生活特論Ⅲ | 2 | 丸山千賀子 | 前期 | 火 | 2 | | |
| 消費生活特論Ⅳ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 消費生活特論Ⅴ | 2 | 古寺 浩 | 前期 | 月 | 2 | | |
| 消費生活特論Ⅵ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 消費生活特論Ⅶ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 消費生活特論Ⅷ | 2 | 上野 順子 | 前期 | 金 | 3 | | |
| 消費生活特論Ⅸ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 消費生活特論Ⅹ | 2 | 宮坂 靖子 | 後期 | 木 | 4 | | |
| 消費生活特論Ⅺ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 消費生活特論Ⅻ | 2 | 日野 知証 | 後期 | 土 | 2 | | |
| 消費生活特論Ⅼ | 2 | 永津 明人 | 前期 | 金 | 4 | | |
| 消費生活特論Ⅽ | 2 | 篠原 康郎 | 前期 | 月 | 3 | | |
| 消費生活特論Ⅾ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 消費生活特論Ⅿ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 消費生活特論研究演習Ⅰ(外書講読を含む) | 2 | 非開講 | | | | | |
| 消費生活特論研究演習Ⅱ(外書講読を含む) | 2 | 上野 順子 | 通年 | 木 | 4 | | |
| 消費生活特論研究演習Ⅲ(外書講読を含む) | 2 | 宮坂 靖子 | 通年 | 前期 | 火 | 4 | |
| | | | 後期 | | 木 | 5 | |
| 消費生活特論研究演習Ⅳ(外書講読を含む) | 2 | 非開講 | | | | | |
| 生活の質特論Ⅰ | 2 | 青山喜久子 | 前期 | 水 | 2 | | |
| 生活の質特論Ⅱ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 生活の質特論Ⅲ | 2 | 平林 由果 | 後期 | 火 | 3 | | |
| 生活の質特論Ⅳ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 生活の質特論Ⅴ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 生活の質特論Ⅵ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 生活の質特論Ⅶ | 2 | 加藤 悠介 | 後期 | 火 | 4 | | |
| 生活の質特論Ⅷ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 生活の質特論Ⅸ | 2 | 内藤 久雄 | 後期 | 金 | 2 | | |
| 生活の質特論Ⅹ | 2 | 岸 和廣 | 前期 | 火 | 5 | | |
| 生活の質特論Ⅺ | 2 | 蘭田 邦博 | 前期 | 火 | 5 | | |
| 生活の質特論Ⅻ | 2 | 丸山 智美 | 前期 | 土 | 2 | | |
| 生活の質特論Ⅼ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 生活の質特論Ⅽ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 生活の質特論Ⅾ | 2 | 非開講 | | | | | |
| 生活の質特論Ⅿ | 2 | 非開講 | | | | | |

| 授業科目 | 単位数 | 担当者 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備考 |
|----------------------|-----|-------|----|----|----|----|
| 生活の質特論研究演習Ⅰ（外書講読を含む） | 2 | 青山喜久子 | 通年 | 前期 | 金 | 1 |
| | | 長嶋 直子 | | 後期 | 金 | 1 |
| 生活の質特論研究演習Ⅱ（外書講読を含む） | 2 | 平林 由果 | 通年 | | 金 | 1 |
| 生活の質特論研究演習Ⅲ（外書講読を含む） | 2 | 園田 邦博 | 通年 | 前期 | 月 | 1 |
| | | | | 後期 | 月 | 2 |
| 生活の質特論研究演習Ⅳ（外書講読を含む） | 2 | 丸山 智美 | 通年 | 前期 | 金 | 5 |
| | | | | 後期 | 木 | 5 |
| 特別研究 | 10 | 青山喜久子 | 通年 | | | |
| | | 網岡 克雄 | | | | |
| | | 石田 淳子 | | | | |
| | | 上野 顕子 | | | | |
| | | 加藤 悠介 | | | | |
| | | 岸 和廣 | | | | |
| | | 北森 一哉 | | | | |
| | | 篠原 康郎 | | | | |
| | | 園田 邦博 | | | | |
| | | 内藤 久雄 | | | | |
| | | 長嶋 直子 | | | | |
| | | 永津 明人 | | | | |
| | | 日野 知証 | | | | |
| | | 平林 由果 | | | | |
| | | 丸山 智美 | | | | |
| | | 宮坂 靖子 | | | | |
| | | 吉川 昌江 | | | | |
| | | 吉田 耕治 | | | | |

修得単位について（履修規程第4条による）

(注1) 修了に必要な最低修得単位数は30単位です。

(注2) 専攻する分野の「研究演習」から2単位修得する必要があります。

(注3) 「研究演習」および「特別研究」を除いた科目から18単位以上修得する必要があります。

ただし、各専攻で開設する科目から10単位以上の修得が必要です。

必修

人間生活学研究科・前期課程・人間発達学専攻

2020年度以降の入学生に適用

| 科目区分 | 授業科目 | 単位数 | 担当者 | 開講基準年次 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備 考 | 資格 | |
|-------|--|-----|-------|--------|----|------|----|---|-------|-------|
| | | | | | | | | | 公認心理師 | 臨床心理士 |
| 共通科目 | 人間生活学研究法Ⅰ | 2 | 古賀 佳樹 | 1 | 前期 | 金 | 5 | | | A群 |
| | 人間生活学研究法Ⅱ | 2 | 非開講 | 1 | | | | 学部「情報リテラシー」と合併 | | |
| | 人間生活学研究法Ⅲ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | |
| 発達学分野 | 発達環境学特論Ⅰ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | C群 |
| | 発達環境学特論Ⅱ (産業・労働分野に関する理論と支援の展開) | 2 | 石津 和子 | 1 | 前期 | 木 | 3 | 「発達環境学特論Ⅰ」と「発達環境学特論Ⅱ(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)」は対で隔年に開講 | 必修 | |
| | 発達環境学特論Ⅲ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | |
| | 発達環境学特論Ⅳ | 2 | 南 元子 | 1 | 後期 | 月 | 4 | | | |
| | 発達環境学特論Ⅴ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | |
| | 発達環境学特論Ⅵ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | |
| | 発達環境学特論Ⅶ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | |
| | 発達環境学特論Ⅷ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | |
| | 発達環境学特論Ⅸ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | |
| | 発達環境学特論Ⅹ (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A) | 2 | 水野 里恵 | 1 | 後期 | 金 | 1 | | 必修 | C群 |
| | 発達環境学特論Ⅺ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | |
| | 発達環境学特論Ⅻ | 2 | 非開講 | 1 | | | | 文学研究科社会学専攻・前期課程「福祉社会論演習Ⅰ(1)」と合併 | | |
| | 発達環境学研究演習Ⅰ (外書講読を含む) | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | |
| | 発達環境学研究演習Ⅱ (外書講読を含む) | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | |
| | 発達教育学特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践B) | 2 | 坂井 誠 | 1 | 前期 | 集中講義 | | 「発達教育学特論X(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B)」と対で隔年に開講 | 必修 | B群 |
| | 発達教育学特論Ⅱ | 2 | 笠井 尚 | 1 | 前期 | 月 | 1 | | | |
| | 発達教育学特論Ⅲ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | |
| | 発達教育学特論Ⅳ | 2 | 渡辺 恭子 | 1 | 前期 | 火 | 4 | | | B群 |
| | 発達教育学特論Ⅴ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | B群 |
| | 発達教育学特論Ⅵ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | E群★ |
| | 発達教育学特論Ⅶ (教育分野に関する理論と支援の展開) | 2 | 宇田 光 | 1 | 前期 | 集中講義 | | 「発達教育学特論VI」と「発達教育学特論VII(教育分野に関する理論と支援の展開)」は対で隔年に開講 | 必修 | |
| | 発達教育学特論Ⅷ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | |
| | 発達教育学特論Ⅸ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | D群 |
| | 発達教育学特論Ⅹ (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B) | 2 | 非開講 | 1 | | | | 「発達教育学特論I(心理支援に関する理論と実践B)」と対で隔年に開講 | 必修 | D群 |
| | 発達教育学特論Ⅺ | 2 | 北折 充隆 | 1 | 前期 | 木 | 4 | | | |
| | 発達教育学特論Ⅻ | 2 | 治田 哲之 | 1 | 後期 | 木 | 4 | | | |
| | 発達教育学研究演習Ⅰ (外書講読を含む) | 2 | 非開講 | 1 | | | | 「発達教育学研究演習Ⅰ(外書講読を含む)」と「発達教育学研究演習Ⅱ(外書講読を含む)」は対で隔年に開講 | | |
| | 発達教育学研究演習Ⅱ (外書講読を含む) | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | |

| 科目区分 | 授業科目 | 単位数 | 担当者 | 開講基準年次 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備考 | 資格 | |
|---------|------------------------------------|-----|---|--------|----|------|----|----|-------|-------|
| | | | | | | | | | 公認心理師 | 臨床心理士 |
| 臨床心理学分野 | 臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践A) | 2 | 渡辺 恭子 | 1 | 後期 | 水 | 3 | | 必修 | 必修★ |
| | 臨床心理面接特論Ⅱ | 2 | 仁里 文美 | 1 | 前期 | 月 | 4 | | | 必修★ |
| | 臨床心理学特論Ⅰ | 2 | 仁里 文美 | 1 | 前期 | 月 | 3 | | | 必修★ |
| | 臨床心理学特論Ⅱ | 2 | 今村友木子 | 1 | 後期 | 月 | 2 | | | 必修★ |
| | 臨床心理学特論Ⅲ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | |
| | 臨床心理学特論Ⅳ | 2 | 非開講 | 1 | | | | | | |
| | 臨床心理学特論Ⅴ (保健医療分野に関する理論と支援の展開) | 2 | 定松 美幸 | 1 | 後期 | 金 | 2 | | 必修 | □群 |
| | 臨床心理学特論Ⅵ | 2 | 松本真理子 | 1 | 前期 | 集中講義 | | | | E群★ |
| | 臨床心理学特論Ⅶ | 2 | 根本 眞弓 | 1 | 前期 | 集中講義 | | | | E群★ |
| | 臨床心理学特論Ⅷ (福祉分野に関する理論と支援の展開) | 2 | 二村 彩 | 1 | 前期 | 金 | 2 | | 必修 | |
| | 臨床心理学特論Ⅸ (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開) | 2 | 中村 薫 | 1 | 後期 | 集中講義 | | | 必修 | |
| | 臨床心理学特論Ⅹ (心の健康教育に関する理論と実践) | 2 | 森川 夏乃 | 1 | 後期 | 集中講義 | | | 必修 | |
| | 臨床心理学査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践) | 2 | 加藤 大樹 | 1 | 後期 | 月 | 3 | | 必修 | 必修★ |
| | 臨床心理学査定演習Ⅱ | 2 | 今村友木子 | 1 | 前期 | 月 | 2 | | | 必修★ |
| | 臨床心理基礎実習Ⅰ | 2 | 川瀬 正裕 渡辺 恭子 | 1 | 前期 | 木 | 1 | | | 必修★ |
| | 臨床心理基礎実習Ⅱ | | 川瀬 正裕 加藤 大樹 | | | 木 | 1 | | | |
| | 心理実践実習Ⅰ | 2 | 川瀬 正裕 今村友木子 加藤 大樹 定松 美幸 仁里 文美 二村 彩 渡辺 恭子 | 1 | 通年 | | | | 必修 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 臨床心理学分野 | 臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習Ⅱ) | 2 | 今村友木子 二村 彩 加藤 大樹 川瀬 正裕 定松 美幸 永原 知佳 仁里 文美 渡辺 恭子 | 2 | 前期 | 木 | 1 | | | 必修 |
| | 木 | | 2 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 臨床心理実習Ⅱ | 2 | 今村友木子 加藤 大樹 川瀬 正裕 定松 美幸 仁里 文美 二村 彩 渡辺 恭子 | 2 | 通年 | | | | | 必修★ |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |

| 科目区分 | 授業科目 | 単位数 | 担当者 | 開講基準年次 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備 考 | 資格 | |
|---------|------------------------|-----|--|--------|----|----|----|-----|-------|-------|
| | | | | | | | | | 公認心理師 | 臨床心理士 |
| 臨床心理学分野 | 心理実践実習Ⅲ | 2 | 仁里 文美 二村 彩 今村友木子 加藤 大樹 川瀬 正裕 定松 美幸 渡辺 恭子 | 2 | 後期 | 木 | 1 | 必修 | A群 | |
| | | | 加藤 大樹 今村友木子 | | | 木 | 2 | | | |
| 特別研究 | 臨床心理学研究演習 (外書講読を含む) | 2 | 石津 和子 今村友木子 加藤 大樹 川瀬 正裕 北折 充隆 定松 美幸 | 1 | 通年 | 前期 | 金 | 1 | 必修 | |
| | | | 仁里 文美 原田 琢也 治田 哲之 二村 彩 南 元子 三宅 英典 渡辺 恭子 | | | 後期 | 月 | 4 | | |
| | | 10 | | | | | | | | |

修得単位について（履修規程第4条による）

(注1) 修了に必要な最低修得単位数は30単位です。

(注2) 専攻する分野の「研究演習」から2単位修得する必要があります。

(注3) 「研究演習」および「特別研究」を除いた科目から18単位以上修得する必要があります。

ただし、各専攻で開設する科目から10単位以上の修得が必要です。

※「臨床心理士」欄に★がついている科目については、臨床心理学分野に在籍している者以外の履修は認められません。

人間生活学研究科・後期課程・人間生活学専攻

2010年度以降の入学生に適用

| 科目区分 | 開講科目名 | 単位数 | 担当者 | 学期 | 曜日 | 時限 | 備考 | |
|---------|------------|-----|-------------------------|----------------|----------------------------------|----------------------------|----------------------------|-------------------|
| 消費者科学領域 | 消費者科学特殊講義Ⅰ | 2 | 上野顕子 | 前期 | 金 | 1 | | |
| | 消費者科学研究演習Ⅰ | 6 | 上野顕子 上野顕子 上野顕子 | 通年 通年 通年 | 金 金 金 | 2 2 2 | 1年目 2年目 3年目 | |
| | 消費者科学特殊講義Ⅱ | 2 | 北森一哉 | 前期 | 木 | 1 | | |
| | 消費者科学研究演習Ⅱ | 6 | 北森一哉 北森一哉 北森一哉 | 通年 通年 通年 | 木 木 木 | 3 3 3 | 1年目 2年目 3年目 | |
| | 消費者科学特殊講義Ⅲ | 2 | 宮坂靖子 | 前期 | 火 | 2 | | |
| | 消費者科学研究演習Ⅲ | 6 | 宮坂靖子 宮坂靖子 宮坂靖子 | 通年 通年 通年 | 火 火 火 | 1 1 1 | 1年目 2年目 3年目 | |
| | 人間環境学特殊講義Ⅰ | 2 | 丸山智美 | 前期 | 木 | 4 | | |
| | 人間環境学研究演習Ⅰ | 6 | 丸山智美 丸山智美 丸山智美 | 通年 通年 通年 | 月 月 月 | 2 2 2 | 1年目 2年目 3年目 | |
| | 人間環境学特殊講義Ⅱ | 2 | 青山喜久子 | 前期 | 金 | 3 | | |
| 人間環境学領域 | 人間環境学研究演習Ⅱ | 6 | 青山喜久子 青山喜久子 青山喜久子 | 通年 通年 通年 | 金 金 金 | 4 4 4 | 1年目 2年目 3年目 | |
| | 人間環境学特殊講義Ⅲ | 2 | 篠原康郎 | 後期 | 水 | 3 | | |
| | 人間環境学研究演習Ⅲ | 6 | 篠原康郎 篠原康郎 篠原康郎 | 通年 通年 通年 | 水 水 水 | 2 2 2 | 1年目 2年目 3年目 | |
| | 人間環境学特殊講義Ⅳ | 2 | 日野知証 | 後期 | 木 | 2 | | |
| | 人間環境学研究演習Ⅳ | 6 | 日野知証 日野知証 日野知証 | 通年 通年 通年 | 水 水 水 | 1 1 1 | 1年目 2年目 3年目 | |
| | 人間発達学特殊講義Ⅰ | 2 | 北折充隆 | 前期 | 金 | 3 | | |
| | 人間発達学研究演習Ⅰ | 6 | 北折充隆 北折充隆 北折充隆 | 通年 通年 通年 | 月 月 月 | 4 4 4 | 1年目 2年目 3年目 | |
| | 人間発達学特殊講義Ⅱ | 2 | 非開講 | | | | | |
| | 人間発達学研究演習Ⅱ | 6 | 非開講 非開講 非開講 | | | | 1年目 2年目 3年目 | |
| 人間発達学領域 | 人間発達学特殊講義Ⅲ | 2 | 渡辺恭子 | 後期 | 木 | 3 | | |
| | 人間発達学研究演習Ⅲ | 6 | 渡辺恭子 渡辺恭子 渡辺恭子 | 通年 通年 通年 | 前期 後期 前期 後期 前期 後期 | 金 火 金 火 金 火 | 2 4 2 4 2 4 | 1年目 2年目 3年目 |
| | 人間発達学特殊講義Ⅳ | 2 | 川瀬正裕 | 後期 | 金 | 1 | | |
| | 人間発達学研究演習Ⅳ | 6 | 川瀬正裕 川瀬正裕 川瀬正裕 | 通年 通年 通年 | 金 金 金 | 4 4 4 | 1年目 2年目 3年目 | |

修得単位について（学則第11条別表Ⅱによる）

(注) 演習科目については、1年間で2単位、3年間で計6単位の修得が必要です。

時間割表

2021年度 人間生活学研究科時間割

【前期】

| | 前期課程・消費者科学専攻 | | | 前期課程・人間発達学専攻 | | | 後期課程・人間生活学専攻 | | |
|---------|-----------------------------------|--------------|----|-------------------------------|----------------------------|--------|--------------------------|---------------|--------|
| | 授業科目名 | 担当者 | 通年 | 授業科目名 | 担当者 | 通年 | 授業科目名 | 担当者 | 通年 |
| 月 1限 | 生活の質特論研究演習Ⅲ（外書講読を含む） | 蘭田邦博 | 通 | 発達教育学特論Ⅱ | 笠井 尚 | | | | |
| | 消費生活特論Ⅴ | 古寺 浩 | | 臨床心理学査定演習Ⅱ | 今村友木子 | | 人間環境学研究演習Ⅰ | 丸山智美 | 通 |
| | 消費生活特論XⅣ | 篠原康郎 | | 臨床心理学特論Ⅰ | 仁里文美 | | | | |
| | | | | 臨床心理面接特論Ⅱ | 仁里文美 | | 人間発達学研究演習Ⅰ | 北折充隆 | 通 |
| 火 1限 | | | | | | | 消費者科学研究演習Ⅲ | 宮坂靖子 | 通 |
| | 消費生活特論Ⅲ | 丸山千賀子 | | | | | 消費者科学特殊講義Ⅲ | 宮坂靖子 | |
| | | | | | | | | | |
| | 消費生活特論研究演習Ⅲ（外書講読を含む） | 宮坂靖子 | 通 | 発達教育学特論Ⅳ | 渡辺恭子 | | | | |
| | 生活の質特論Ⅹ | 岸 和廣 | | | | | | | |
| 水 1限 | 生活の質特論XI | 蘭田邦博 | | | | | 人間環境学研究演習Ⅳ | 日野知証 | 通 |
| | | | | | | | 人間環境学研究演習Ⅲ | 篠原康郎 | 通 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 木 1限 | | | | 臨床心理基礎実習Ⅰ 臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ） | 川瀬・渡辺 今村・二村 （他複数担当者） | ▼ ▼ | 消費者科学特殊講義Ⅱ | 北森一哉 | |
| | | | | 臨床心理基礎実習Ⅰ 臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ） | 川瀬・渡辺 今村・永原 （他複数担当者） | ▲ ▲ | | | |
| | | | | 発達環境学特論Ⅱ（産業・労働分野に関する理論と支援の展開） | 石津和子 | | 消費者科学研究演習Ⅱ | 北森一哉 | 通 |
| | 消費生活特論研究演習Ⅱ（外書講読を含む） | 上野顕子 | 通 | 発達教育学特論Ⅺ | 北折充隆 | | 人間環境学特殊講義Ⅰ | 丸山智美 | |
| 金 1限 | 生活の質特論研究演習Ⅰ（外書講読を含む） | 青山喜久子 | 通 | 臨床心理学研究演習（外書講読を含む） | 加藤大樹 | 通 | 消費者科学特殊講義Ⅰ | 上野顕子 | |
| | 生活の質特論研究演習Ⅱ（外書講読を含む） | 平林由果 | 通 | | | | | | |
| | | | | 臨床心理学特論Ⅷ（福祉分野に関する理論と支援の展開） | 二村 彩 | | 消費者科学研究演習Ⅰ 人間発達学研究演習Ⅲ | 上野顕子 渡辺恭子 | 通 通 |
| | 消費生活特論Ⅷ | 上野顕子 | | | | | 人間発達学特殊講義Ⅰ 人間環境学特殊講義Ⅱ | 北折充隆 青山喜久子 | |
| | 消費生活特論XⅢ | 永津明人 | | | | | 人間環境学研究演習Ⅱ 人間発達学研究演習Ⅳ | 青山喜久子 川瀬正裕 | 通 通 |
| 土 1限 | 人間生活学研究法Ⅰ 生活の質特論研究演習Ⅳ（外書講読を含む） | 古賀佳樹 丸山智美 | 通 | 人間生活学研究法Ⅰ | 古賀佳樹 | | | | |
| | 生活の質特論XⅡ | 丸山智美 | | | | | | | |

▼は、次の時間に続いています。▲は、前の時間から続いています。

【集中講義】

前期課程・人間発達学専攻

| 授業科目名 | 担当者 | 通年 | 日 程 |
|------------------------------|-------|----|-----------------------------|
| 臨床心理学特論VI | 松本真理子 | | 8月25日(水)・26日(木)・27日(金)各1~5限 |
| 臨床心理学特論VII | 根本真弓 | | 9月6日(月)・7日(火)・8日(水)各1~5限 |
| 発達教育学特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践B） | 坂井 誠 | | 8月2日(月)・3日(火)・4日(水)各1~5限 |
| 発達教育学特論VII（教育分野に関する理論と支援の展開） | 宇田 光 | | 9月9日(木)・10日(金)・11日(土)各1~5限 |

*上記日程は変更の可能性があります。K-PORTにてお知らせしますので確認してください。

【日付不定】

前期課程・消費者科学専攻

| 特別研究 |
|--|
| 青山・網岡・石田・上野・加藤(悠)・岸 北森・篠原・蘭田・内藤・長嶋・永津 日野・平林・丸山(智)・宮坂・吉川・吉田 |

前期課程・人間発達学専攻

| |
|-------------------------|
| 心理実践実習Ⅰ・臨床心理実習Ⅱ |
| 今村・加藤(大)・川瀬・定松・仁里・二村・渡辺 |

特別研究

| |
|---|
| 今村・加藤(大)・川瀬・北折・定松・仁里 原田・治田・二村・南・三宅・石津・渡辺 |
|---|

2021年度 人間生活学研究科時間割

【後期】

| | | 前期課程・消費者科学専攻 | | | 前期課程・人間発達学専攻 | | | 後期課程・人間生活学専攻 | | |
|---|----|--|--------------|--------|--|----------------------------|----|--------------------------|---------------|--------|
| | | 授業科目名 | 担当者 | 通年 | 授業科目名 | 担当者 | 通年 | 授業科目名 | 担当者 | 通年 |
| 月 | 1限 | | | | | | | | | |
| | 2限 | 生活の質特論研究演習Ⅲ（外書講読を含む） | 園田邦博 | 通 | 臨床心理学特論Ⅱ | 今村友木子 | | 人間環境学研究演習Ⅰ | 丸山智美 | 通 |
| | 3限 | | | | 臨床心理学査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践） | 加藤大樹 | | | | |
| | 4限 | 発達環境学特論Ⅳ | 南元子 | | 臨床心理学研究演習（外書講読を含む） | 今村友木子 | 通 | 人間発達学研究演習Ⅰ | 北折充隆 | 通 |
| 火 | 1限 | | | | | | | 消費者科学研究演習Ⅲ | 宮坂靖子 | 通 |
| | 2限 | | | | | | | | | |
| | 3限 | 生活の質特論Ⅲ | 平林由果 | | | | | | | |
| | 4限 | 生活の質特論Ⅴ | 加藤悠介 | | | | | 人間発達学研究演習Ⅲ | 渡辺恭子 | 通 |
| 水 | 1限 | | | | | | | 人間環境学研究演習Ⅳ | 日野知証 | 通 |
| | 2限 | | | | | | | 人間環境学研究演習Ⅲ | 篠原康郎 | 通 |
| | 3限 | | | | 臨床心理面接論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践A） | 渡辺恭子 | | 人間環境学特殊講義Ⅲ | 篠原康郎 | |
| | 4限 | | | | | | | | | |
| 木 | 1限 | | | | 臨床心理基礎実習Ⅱ 心理実践実習Ⅲ | 川瀬・加藤 仁里・二村 (他複数担当者) | ▼ | | | |
| | 2限 | | | | 臨床心理基礎実習Ⅱ 心理実践実習Ⅲ | 川瀬・加藤 仁里・二村 (他複数担当者) | ▲ | 人間環境学特殊講義Ⅳ | 日野知証 | |
| | 3限 | | | | | | | 人間発達学特殊講義Ⅲ 消費者科学研究演習Ⅱ | 渡辺恭子 北森一哉 | 通 |
| | 4限 | 消費生活特論Ⅹ 消費生活特論研究演習Ⅱ（外書講読を含む） | 宮坂靖子 上野頸子 | 通 | 発達教育学特論ⅩⅡ | 治田哲之 | | | | |
| | 5限 | 消費生活特論研究演習Ⅲ（外書講読を含む） 生活の質特論研究演習Ⅳ（外書講読を含む） | 宮坂靖子 丸山智美 | 通 | | | | | | |
| 金 | 1限 | 生活の質特論研究演習Ⅰ（外書講読を含む） 生活の質特論研究演習Ⅱ（外書講読を含む） | 長嶋直子 平林由果 | 通 通 | 発達環境学特論Ⅹ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A） | 水野里恵 | | 人間発達学特殊講義Ⅳ | 川瀬正裕 | |
| | 2限 | 生活の質特論Ⅸ | 内藤久雄 | | 臨床心理学特論Ⅴ（保健医療分野に関する理論と支援の展開） | 定松美幸 | | 消費者科学研究演習Ⅰ | 上野頸子 | 通 |
| | 3限 | 消費生活特論Ⅱ | 小田奈緒美 | | | | | | | |
| | 4限 | | | | | | | 人間環境学研究演習Ⅱ 人間発達学研究演習Ⅳ | 青山喜久子 川瀬正裕 | 通 通 |
| 土 | 1限 | | | | | | | | | |
| | 2限 | 消費生活特論Ⅺ | 日野知証 | | | | | | | |

▼は、次の時間に続いています。▲は、前の時間から続いています。

【集中講義】

前期課程・人間発達学専攻

| 授業科目名 | 担当者 | 通年 | 日程 |
|-------------------------------|------|----|--|
| 臨床心理学特論Ⅸ（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開） | 中村 薫 | | 2月7日(月)・8日(火)・9日(水)各1~4限、 10日(木)1~3限 |
| 臨床心理学特論Ⅹ（心の健康教育に関する理論と実践） | 森川夏乃 | | 1月24日(月)・25日(火)・26日(水)各1~4限、 28日(金)1~3限 |

☆上記日程は変更の可能性があります。K-PORTにてお知らせしますので確認してください。

【日付不定】

前期課程・消費者科学専攻

| 特別研究 |
|--|
| 青山・網岡・石田・上野・加藤(悠)・岸北森・篠原・園田・内藤・長嶋・永津 日野・平林・丸山(智)・宮坂・吉川・吉田 |

前期課程・人間発達学専攻

| 心理実践実習Ⅰ・臨床心理実習Ⅱ |
|-------------------------|
| 今村・加藤(大)・川瀬・定松・仁里・二村・渡辺 |

特別研究

| |
|---|
| 今村・加藤(大)・川瀬・北折・定松・仁里 原田・治田・二村・南・三宅・右津・渡辺 |
|---|

資格取得について

◆ 取得できる資格 ◆

■中学校及び高等学校教諭専修免許状取得について

1. 中学校教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状とは

教師になった場合、校長や教頭といった管理職になるためには専修免許状が求められることがあります。専修免許状取得は、一種免許状をグレードアップする意味を持ちます。

専修免許の基礎資格は、中学校教諭一種免許状（家庭）、または高等学校教諭一種免許状（家庭）を有し、本学大学院において修士の学位を修得すること、または大学院に1年以上在学し30単位以上修得していることです。これに加え、消費者科学専攻で開設する授業科目のうち、下表に掲げる科目から24単位以上（前記の「30単位以上」に含めることができます）を修得すると、中学校教諭一種免許状（家庭）所有者は中学校教諭専修免許状（家庭）が、高等学校教諭一種免許状（家庭）所有者は高等学校教諭専修免許状（家庭）が取得できます。

修了と同時に免許状を取得する場合は、本学から一括して愛知県教育委員会に申請します。免許状は、修了年次の9月に申請申し込みをし、11月に申請書類を記入した後、修了時に受理することになります。

2. 資格認定機関

文部科学省により認定されます。免許状申請資格を有する者には、愛知県教育委員会に申請することにより、中学校及び高等学校教諭専修免許状が授与されます。

3. 資格取得に関する科目

消費者科学専攻では、専修免許状取得科目を以下のように用意しています。

【2019年度以降の入学生に適用】

| | | | |
|--------------|------------------|--|------|
| 大学が独自に設定する科目 | 教科及び教科の指導法に関する科目 | 消費生活特論 I, II, III, IV, V, VI, VII, VIII, IX, X, XI, XII, XIII, XIV, XV, XVI | 各2単位 |
| | | 消費生活特論研究演習 I, II, III, IV (外書講読を含む) | |
| | | 生活の質特論 I, II, III, IV, V, VI, VII, VIII, IX, X, XI, XII, XIII, XIV, XV, XVI | |
| | | 生活の質特論研究演習 I, II, III, IV (外書講読を含む) | |

4. 資格取得に要する費用

申請費用として、1教科につき3,500円が必要です。

■幼稚園教諭専修免許状取得について

1. 幼稚園教諭専修免許状とは

幼稚園教諭の免許の種類は、1種免許、2種免許、専修免許の3種類があります。専修免許の基礎資格は、幼稚園教諭1種免許状の所有資格を有する者で、修士の学位を有するか、大学院に1年以上在学し、30単位以上を修得していることです。これに加え、人間発達学専攻で開設する授業科目のうち、下表に掲げる科目から24単位以上（前記の「30単位以上」に含めることができます）を修得すると、幼稚園教諭専修免許状が取得できます。

修了と同時に免許状を取得する場合は、本学から一括して愛知県教育委員会に申請します。免許状は、修了年次の9月に申請申し込みをし、11月に申請書類を記入した後、修了時に受理することになります。

2. 資格認定機関

文部科学省により認定されます。免許状申請資格を有する者には、愛知県教育委員会に申請することにより、幼稚園教諭専修免許状が授与されます。

3. 資格取得に関する科目

人間発達学専攻では、専修免許状取得科目を以下のように用意しています。

【2020年度以降の入学生に適用】

| | | | |
|--------------|-------------------------------------|---|------|
| 大学が独自に設定する科目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | 発達環境学特論IV 発達環境学特論X（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A） 発達環境学研究演習I（外書講読を含む） 発達教育学特論I（心理支援に関する理論と実践B） 発達教育学特論III 発達教育学特論IV 発達教育学特論X（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B） 発達教育学特論XII 発達教育学研究演習I（外書講読を含む） 発達教育学研究演習II（外書講読を含む） 臨床心理面接特論I（心理支援に関する理論と実践A） 臨床心理面接特論II 臨床心理学特論I 臨床心理学特論II 臨床心理学特論V（保健医療分野に関する理論と支援の展開） 臨床心理学特論VI 臨床心理学特論VII | 各2単位 |
| | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 人間生活学研究法I 発達環境学特論I 発達環境学特論II（産業・労働分野に関する理論と支援の展開） 発達教育学特論II 発達教育学特論VI 発達教育学特論VII（教育分野に関する理論と支援の展開） 発達教育学特論XI | |
| | 教育実践に関する科目 | | |

4. 資格取得に要する費用

大学の一括申請による場合は、申請費用3,500円が必要です。

◆ 受験資格が得られる資格 ◆

■公認心理師の資格について

1. 公認心理師とは

公認心理師は、心理職の唯一の国家資格で、病院・学校・福祉機関・司法関係・企業などでカウンセリングをはじめとしたさまざまな心理的援助を行う専門職の資格です。その業務については、「公認心理師法」に以下のように述べられています。

- (1) 心理に関する支援をする者の心理状態を観察し、その結果を分析すること。
- (2) 心理に関する支援をする者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
- (3) 心理に関する支援をする者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
- (4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと。

2. 所管機関

文部科学省および厚生労働省の共同所管

3. 受験資格取得のための科目

下記の表にある「必修」科目をすべて履修し、博士課程・前期課程・人間発達学専攻臨床心理学分野を修了することで受験資格を取得することができます。

【2020年度以降の入学生に適用】

| 省令で定める指定科目 | 区分 | 左記に対応する本大学院開設授業科目、単位数、開講形態および開講年次 | | | |
|---------------------------------|----|--|-----|------|------|
| | | 開設授業科目 | 単位数 | 開講形態 | 開講年次 |
| ① 保健医療分野に関する理論と支援の展開 | 必修 | 臨床心理学特論Ⅴ（保健医療分野に関する理論と支援の展開） | 2 | 毎年開講 | 1年次 |
| ② 福祉分野に関する理論と支援の展開 | 必修 | 臨床心理学特論Ⅷ（福祉分野に関する理論と支援の展開） | 2 | 毎年開講 | 1年次 |
| ③ 教育分野に関する理論と支援の展開 | 必修 | 発達教育学特論Ⅶ（教育分野に関する理論と支援の展開） | 2 | 隔年開講 | 1年次 |
| ④ 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 | 必修 | 臨床心理学特論Ⅸ（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開） | 2 | 毎年開講 | 1年次 |
| ⑤ 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 | 必修 | 発達環境学特論Ⅱ（産業・労働分野に関する理論と支援の展開） | 2 | 毎年開講 | 1年次 |
| ⑥ 心理的アセスメントに関する理論と実践 | 必修 | 臨床心理学査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践） | 2 | 毎年開講 | 1年次 |
| ⑦ 心理支援に関する理論と実践 | 必修 | 臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践A） | 2 | 毎年開講 | 1年次 |
| | 必修 | 発達教育学特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践B） | 2 | 隔年開講 | 1年次 |
| ⑧ 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 | 必修 | 発達環境学特論Ⅹ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A） | 2 | 毎年開講 | 1年次 |
| | 必修 | 発達教育学特論Ⅹ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B） | 2 | 隔年開講 | 1年次 |
| ⑨ 心の健康教育に関する理論と実践 | 必修 | 臨床心理学特論Ⅹ（心の健康教育に関する理論と実践） | 2 | 毎年開講 | 1年次 |
| ⑩ 心理実践実習 | 必修 | 心理実践実習Ⅰ | 2 | 毎年開講 | 1年次 |
| | 必修 | 臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ） | 2 | 毎年開講 | 2年次 |
| | 必修 | 心理実践実習Ⅲ | 2 | 毎年開講 | 2年次 |

4. 「心理実践実習」の内容および時間数

「心理実践実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」においては、医療機関を含めた複数の領域において、心理的支援を要する者等に対する実践を行うこととともに見学を適宜行います。その内容は次のとおりです。

(1) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得

- ①コミュニケーション
- ②心理検査
- ③心理面接
- ④地域支援等

(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成

(3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

(4) 多職種連携および地域連携

(5) 公認心理師の職業倫理及び法的義務への理解

なお、それぞれの時間数等の目安は下表に示すとおりです。

| 科目名 | 開講時期 | 領域 | 学内 | | 学外 | |
|---------|------|----------|-------|-----|------------------|-----|
| | | | ケース担当 | 担当外 | ケース担当 (90h以上) | 担当外 |
| 心理実践実習Ⅰ | 1年通年 | 医療・保健分野 | | | 20 | |
| | | 福祉分野 | | | | 3 |
| | | 産業分野 | | | | 3 |
| | | 学内担当ケース | 34 | | | |
| | | 担当ケースSV | 17 | | | |
| | | 学内ケース検討 | | 50 | | |
| 心理実践実習Ⅱ | 2年前期 | 学外施設実習 | | | 36 | 48 |
| | | 学外施設見学実習 | | | | 3 |
| | | 実習指導 | | | | 45 |
| | | 学内担当ケース | 40 | | | |
| | | 担当ケースSV | 34 | | | |
| 心理実践実習Ⅲ | 2年後期 | 学外施設実習 | | | 36 | 48 |
| | | 学外施設見学実習 | | | | 3 |
| | | 実習指導 | | | | 45 |
| | | 学内担当ケース | 36 | | | |
| | | 担当ケースSV | 32 | | | |
| 合 計 | | | 193 | 50 | 92 | 198 |

| | | |
|---------------------|----|-------|
| ケース担当実習 (270h以上) | 学内 | 193時間 |
| | 学外 | 92時間 |
| ケース担当外実習 | 学内 | 50時間 |
| | 学外 | 198時間 |
| 総実習時間数 (450h以上) | | 533時間 |

*心理実践実習Ⅱ、Ⅲのいずれかにおいて、医療機関での実践的実習を行います。

*心理実践実習Ⅱ、Ⅲにおいて、実習期間中に教育の巡回指導を行います。

5. 課程履修費等

本課程を履修するには、学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、15,600円（1年次）、35,100円（2年次）です。なお、実習の際には学研災付帶賠償保険料340円が必要です。

■臨床心理士の資格について

1. 臨床心理士とは

臨床心理士の資格を取得すると、心の問題を抱えた子どもから高齢者まで、また、発達障害児などに対して広く援助を行う「心の専門家」として、病院、クリニック、児童相談所、福祉施設、保健所、学校現場などで、カウンセリングを行ったり、コンサルテーションを行ったり、心理的な面からの援助を行うなどの活躍ができます。

2. 資格認定機関

財団法人日本臨床心理士資格認定協会

3. 資格取得に関する科目

下記の必修科目20単位、および選択必修科目群A、B、C、D、Eからそれぞれ2単位以上、計30単位以上を取得し、博士課程・前期課程・人間発達学専攻臨床心理学分野を修了すると、修了した年以降の臨床心理士資格試験の受験資格が与えられます。

【2020年度以降の入学生に適用】

| 区分 | 群 | 指定授業科目名 | 単位数 | 左記に対応する本大学院開設授業科目、単位数および開講形態 | | |
|------|---|------------------------------|-----|---|-----|-------|
| | | | | 開設授業科目名【副題】 | 単位数 | 開講形態 |
| 必修 | | 臨床心理学特論 | 4 | 臨床心理学特論Ⅰ | 2 | 毎年1年次 |
| | | | | 臨床心理学特論Ⅱ | 2 | 毎年1年次 |
| 必修 | | 臨床心理面接特論 | 4 | 臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践A） | 2 | 毎年1年次 |
| | | | | 臨床心理面接特論Ⅱ | 2 | 毎年1年次 |
| 必修 | | 臨床心理査定演習 | 4 | 臨床心理学査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践） | 2 | 毎年1年次 |
| | | | | 臨床心理学査定演習Ⅱ | 2 | 毎年1年次 |
| 必修 | | 臨床心理基礎実習 | 2 | 臨床心理基礎実習Ⅰ | 2 | 毎年1年次 |
| | | | | 臨床心理基礎実習Ⅱ | 2 | 毎年1年次 |
| 必修 | | 臨床心理実習 | 2 | 臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ） | 2 | 毎年2年次 |
| | | | | 臨床心理実習Ⅱ | 2 | 毎年2年次 |
| 選択必修 | A | 心理統計法特論 臨床心理学研究法特論 | 2 | 人間生活学研究法Ⅰ【心理統計法特論】 | 2 | 毎年開講 |
| | | | | 臨床心理学研究演習（外書講読を含む） | 2 | 毎年開講 |
| 選択必修 | B | 学習心理学特論 発達心理学特論 | 2 | 発達教育学特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践B）【学習心理学特論】 | 2 | 隔年開講 |
| | | | | 発達教育学特論Ⅳ【発達心理学特論】 | 2 | 毎年開講 |
| 選択必修 | C | 社会心理学特論 家族心理学特論 | 2 | 発達環境学特論Ⅰ【社会心理学特論】 | 2 | 隔年開講 |
| | | | | 発達環境学特論X（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A）【家族心理学特論】 | 2 | 毎年開講 |
| 選択必修 | D | 障害者（児）心理学特論 精神医学特論 | 2 | 発達教育学特論X（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B）【障害者（児）心理学特論】 | 2 | 隔年開講 |
| | | | | 臨床心理学特論V（保健医療分野に関する理論と支援の展開）【精神医学特論】 | 2 | 毎年開講 |
| 選択必修 | E | 学校臨床心理学特論 投映法特論 心理療法特論 | 2 | 発達教育学特論VI【学校臨床心理学特論】 | 2 | 隔年開講 |
| | | | | 臨床心理学特論VI【投映法特論】 | 2 | 毎年開講 |
| | | | | 臨床心理学特論VII【心理療法特論】 | 2 | 毎年開講 |

*この表の「区分」欄に必修とある科目および選択必修のE群の科目については、臨床心理学分野に在籍している者以外の受講は認められません。

4. 課程履修費等

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、20,850円（1年次）、63,850円（2年次）です。なお、実習の際には学研災付帶賠償責任保険料340円が必要です。

◆ 推奨する資格 ◆

■消費生活アドバイザーの資格について

1. 消費生活アドバイザーとは

(1)企業や行政機関・各種団体等の消費者関連部門にあって、消費者と企業・行政等とのパイプ役として、消費者の意向を企業経営や行政に反映させ、また消費者からの相談等に対し、適切な助言を行う消費者問題のエキスパートです。内閣総理大臣及び経済産業大臣事業認定資格です。

具体的には次のような活動を行っています。

- ①商品・サービス等に関する苦情相談及び使い方に関する相談や助言
 - ②商品の性能、安全性等、使用目的に応じた買い物相談や助言
 - ③商品の企画・開発に関して、消費者の立場からの提言や助言
 - ④消費者向けのパンフレットや商品説明書など各種資料の作成及びチェック
 - ⑤商品テスト、モニター、市場調査等を通じた消費者の意向を反映した各種提言
 - ⑥消費者トラブルの解決のための相談や助言
- (2)消費生活アドバイザー資格試験は消費生活相談員資格試験を兼ねる形で実施されますので、合格者は消費生活アドバイザー資格と消費生活相談員資格の両方を同時に取得できます。

2. 認定試験機関

一般財団法人日本産業協会

3. 資格取得に関する科目

本学では、消費生活アドバイザー資格取得を支援する「資格取得支援科目」と、消費生活アドバイザー資格とかかわりの深い「資格取得関連科目」を以下のように用意しています。開講される科目については、資格担当教員が指導し、関連情報を提供します。

| 資格取得支援科目 | 消費生活特論Ⅰ |
|----------|-------------|
| | 消費生活特論Ⅱ |
| | 消費生活特論Ⅲ |
| | 消費生活特論Ⅳ |
| | 消費生活特論Ⅴ |
| | 消費生活特論Ⅵ |
| | 消費生活特論Ⅶ |
| | 消費生活特論Ⅷ |
| | 消費生活特論Ⅸ |
| | 消費生活特論Ⅹ |
| | 消費生活特論研究演習Ⅰ |
| | 消費生活特論研究演習Ⅱ |
| | 消費生活特論研究演習Ⅲ |

4. 資格取得に要する費用

受験料13,200円（税込） (2020年度実績)

■消費生活相談員の資格（国家資格）について

1. 消費生活相談員資格とは

- (1)消費生活相談員は、国や地方公共団体等が行う消費生活相談に携わる専門職です。消費者からの相談に対応するための一定水準以上の知識と能力を持ち合わせていることが求められます。活躍の場は主に全国各地の消費生活センター等で、消費者から消費者トラブルについて直接相談を受け、解決に向けて助言や事業者へのあっせんを行います。
- 【参考】消費者安全法が改正（2014年6月）され、地方公共団体における消費生活相談体制を強化するために、消費生活センター等に事業者に対する消費者からの苦情に係る相談・あっせんに従事する消費生活相談員を置くこととし、消費生活相談員は、消費生活相談員資格試験に合格した者またはこれと同等以上の専門的な知識及び技術を有すると都道府県知事または市町村長が認めたものから任用することになりました。2016年度同法施行にともない内閣総理大臣認可事業として、消費生活相談員資格制度が始まりました。
- (2)消費生活相談員資格試験は、「消費生活専門相談員」資格認定試験を兼ねています。合格者には、独立法人国民生活センター理事長により「消費生活専門相談員」（更新制）の資格が認定されます。「消費生活専門相談員」は消費生活相談業務に携わる専門家で、内閣総理大臣事業認定資格です。
- (3)消費生活相談員資格は、消費生活アドバイザー資格試験（認定試験機関：一般財団法人日本産業協会）合格者も取得できます。

2. 登録試験機関

独立行政法人国民生活センター

3. 資格取得に関する科目

本学では、消費生活相談員資格取得を支援する「資格取得支援科目」と、消費生活相談員資格とかかわりの深い「資格取得関連科目」を以下のように用意しています。開講される科目については、資格担当教員が指導し、関連情報を提供します。

| | |
|----------|-------------|
| 資格取得支援科目 | 消費生活特論Ⅰ |
| | 消費生活特論Ⅱ |
| | 消費生活特論Ⅲ |
| | 消費生活特論Ⅳ |
| | 消費生活特論Ⅴ |
| | 消費生活特論Ⅵ |
| | 消費生活特論Ⅶ |
| | 消費生活特論Ⅷ |
| | 消費生活特論Ⅸ |
| | 消費生活特論Ⅹ |
| | 消費生活特論研究演習Ⅰ |
| | 消費生活特論研究演習Ⅱ |
| | 消費生活特論研究演習Ⅲ |

4. 資格取得に要する費用

受験料14,300円（税込） (2020年度実績)

■ファイナンシャル・プランナーの資格について

1. ファイナンシャル・プランナーとは

ファイナンシャル・プランナー（Financial Planner）またはファイナンシャル・プランニング（Financial Planning）は、FPと表記されますが、資格としてのFPは、顧客の価値や自己実現目標に照らして資産運用・生活設計についてプランニングを行い、将来の夢などを確かなものとするサポートを行う、言わば家計と生活設計のアドバイザーです。日本型金融ビックバンに伴う金融商品と運用方法の多様化、終身雇用制度の崩壊、退職金や年金への不安といった経済的諸課題を抱える今日、生活者が自己責任のもとに生涯にわたってライフスタイルを実現していく上で、パーソナル・ファイナンシャル・プランニングの重要性はますます高まっています。FP関連の学習は、資格取得のみならず、自らの生涯にわたる生活設計における課題克服にも役立てていくことができるでしょう。

2. 資格認定機関

FP資格は、NPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会が認定する民間資格としてのAFP（アフィリエイティッドファイナンシャルプランナー）・CFP（サーティファイドファイナンシャルプランナー）と、社団法人金融財政事情研究会、および日本ファイナンシャル・プランナーズ協会が職業能力開発促進法に基づき実施する国家試験合格者に与えられる「ファイナンシャル・プランニング技能士（3級・2級・1級）」とがあります。

3. 資格取得に関する科目

FP資格試験の対象となる科目内容は、「金融資産運用設計」「不動産運用設計」「ライフプランニング・リタイアメントプランニング」「リスクと保険」「タックスプランニング」「相続・事業承継設計」の6分野に分けられています。開講科目のうち、『消費生活特論V』では、これらの各分野に関連した制度や課題について生活設計の立場から考察し、あわせて資格関連情報を提供していきます。

4. 資格取得に要する費用

ファイナンシャル・プランニング技能士各級の資格試験の受検手数料は以下のとおりです。ただし3級の受検資格は「FP業務に従事している者、または従事しようとしている者」ということでどなたでも受検が可能ですが、2級以上の受検には実務経験や下位の資格取得が条件となります。また、受検には事前に受検申請が必要です。

<受検手数料>

3級 3,000円（学科）+ 3,000円（実技）= 6,000円

2級 4,200円（学科）+ 4,500円（実技）= 8,700円

1級 8,900円（学科）+ 25,000円（実技）= 33,900円

(2021年度)

■繊維製品品質管理士の資格について

1. 繊維製品品質管理士とは

昭和56年度に通商産業省の告示（平成9年12月18日廃止）に基づき生まれたもので、日本衣料管理協会が認定する資格です。T E S (Textiles Evaluation Specialist) と繊維業界では呼ばれています。T E Sは、消費者に供給される繊維製品の品質・性能の向上を図り、繊維製品の品質について消費者からクレームが出ないように、それらの製品の製造や販売を行う企業のなかで活躍するスペシャリストです。現在、繊維・アパレル業界の有力企業ではT E S資格の取得を推奨しています。

2. 資格認定機関

一般社団法人日本衣料管理協会

3. 資格取得に関する科目

資格を取得するためには、日本衣料管理協会が実施する試験に合格する必要があります。2021年度の試験は、7月第2日曜日に名古屋試験場を含む、全国6会場で行われます。試験科目は、①繊維に関する一般知識、②家庭用繊維製品の製造と品質に関する知識、③家庭用繊維製品の流通、消費と消費者問題に関する知識、④事例（苦情に対する応用能力の有無が問われます）、⑤論文（繊維産業の現状とT E Sとしての見識が問われます）の5科目で行われます。テキスタイルアドバイザー資格者は、①の「繊維に関する一般知識」の科目が免除されます。

本学では、繊維製品品質管理士資格取得を支援する「資格取得関連科目」を以下のように用意しています。

| | |
|----------|------------|
| 資格取得関連科目 | 生活の質特論 I |
| | 生活の質特論 II |
| | 生活の質特論 III |

4. 資格取得に要する費用

受験料 14,300円（税込） （予定）

人間生活学研究科履修規程

(1996年1月23日制定)

最終改正 2017年7月20日

(目的)

第1条 この規程は、金城学院大学大学院学則（以下「学則」という。）第14条に基づき、金城学院大学大学院人間生活学研究科（以下「本研究科」という。）の授業科目等の履修方法を定める。

(授業科目及び単位数)

第2条 本研究科の各専攻の授業科目及び単位数は、学則の別表Ⅱのとおりとする。

(前期課程の指導教員)

第3条 金城学院大学大学院人間生活学研究科委員会（以下「本研究科委員会」という。）は、入学初年度に、学生の研究分野あるいは領域に応じて指導教員及び副指導教員を定める。

2 指導教員は、原則としてその研究分野あるいは領域の研究指導担当教員とする。

3 本研究科委員会において、教育上有益と認められるときは、本学研究所の教員、本研究科兼任・兼任教員に必要な研究指導を委嘱することができる。

4 前各項にかかわらず、学生の親族で2親等以内の者を指導教員及び副指導教員とすることはできない。

5 学生は、指定された指導教員及び副指導教員のもとで研究し、修士論文又は専攻が指定する特定の課題の研究成果（以下「特定課題」という。）の作成をするものとする。

(前期課程の履修方法)

第4条 本研究科の前期課程の各専攻において、2年以上4年以内在学し、30単位以上を修得し、かつ、修士論文又は特定課題を提出するものとする。なお、各専攻の修得単位については、次の各号のとおりとする。

(1) 消費者科学専攻の学生は、研究演習を1科目2単位、特別研究を10単位、研究演習及び特別研究を除く授業科目を18単位以上修得するものとする。

(2) 人間発達学専攻の学生は、専攻する分野の研究演習を1科目2単位、専攻する分野の特別研究を10単位、研究演習及び特別研究を除く授業科目を18単位以上修得するものとする。

2 前項各号に示す研究演習及び特別研究を除く授業科目は、各専攻で開設する科目から10単位以上を修得するものとする。

3 第1項各号に示す研究演習の履修は、専攻する分野以外について、原則として認めない。

(前期課程の研究計画等)

第5条 1年次学生は、所定の期日までに修士論文研究計画書又は特定課題研究計画書を指導教員及び副指導教員に提出するものとする。

(後期課程の指導教員)

第6条 本研究科委員会は、入学初年度に、学生の研究分野あるいは領域に応じて指導教員及び副指導教員を定める。

2 指導教員は、原則としてその研究分野あるいは領域の研究指導担当教員とする。

3 本研究科委員会において、教育上有益と認められるときは、本学研究所の教員、本研究科兼任・兼任教員に必要な研究指導を委嘱することができる。

4 前各項にかかわらず、学生の親族で2親等以内の者を指導教員及び副指導教員とすることはできない。

5 学生は、指定された指導教員及び副指導教員のもとで、研究及び博士論文等の作成をするものとする。

(後期課程の履修方法)

第7条 本研究科の後期課程において、3年以上6年以内在学して、授業科目につき演習科目6単位を含む修了要件単位6単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出するものとする。

2 第1項の規定にかかわらず、在学期間については、優れた研究業績を上げた者と本研究科委員会が認めた場合は、後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。その場合、演習科目は、在学期間に6単位修得するものとする。

(後期課程の研究計画等)

第8条 学生は、毎年度初めに、研究計画書を、指導教員及び副指導教員に提出するものとする。

2 学生は、毎年度所定の期日までに、研究経過報告書を、指導教員及び副指導教員に提出するものとする。

3 学生は、1年に1回以上もしくは在学期間に3回以上の、学内外研究雑誌又は学会発表による研究発表を行う。もしくは、それと同等なものと人間生活学専攻委員会が認定した研究発表を行う。

(各種資格に係る授業科目の履修方法)

第9条 各種資格取得のために必要な授業科目及び単位の修得方法は、当該取得資格の課程表において示すところによる。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、本研究科委員会の議決に基づき、これを行う。

附 則（一部省略）

附 則（2017年7月20日人間生活学研究科委員会）

この規程は、2018年4月1日から施行する。

人間生活学研究科 ディプロマ・ポリシー

〔1〕博士課程前期課程 消費者科学専攻

人間生活学研究科博士課程前期課程消費者科学専攻では、生活経営学・生活経済学・健康栄養学・被服環境学・住居環境学・生活薬学に関する高度な専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識

- (1) 豊かな人間性を支える広い教養を身につけている。
- (2) 広い視野に立って高度で清深な学識を身につけている。

2. 思考力・実践力

- (3) 専攻分野における高度な思考力を身につけている。
- (4) 高度な専門性を有する職業等に必要な実践力を身につけている。

3. コミュニケーション力

- (5) 専攻分野における研究能力を用いて他者の意見を理解するとともに、自分の意見を充分に表明できる能力を身につけている。
- (6) 自分の意見や立場について常に考える姿勢を身につけている。

〔2〕博士課程前期課程 人間発達学専攻

人間生活学研究科博士課程前期課程人間発達学専攻では、心理学・教育学・保育学・芸術療法学・臨床心理学に関する高度な専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識

- (1) 豊かな人間性を支える広い教養を身につけている。
- (2) 広い視野に立って高度で清深な学識を身につけている。

2. 思考力・実践力

- (3) 専攻分野における高度な思考力を身につけている。
- (4) 高度な専門性を有する職業等に必要な実践力を身につけている。

3. コミュニケーション力

- (5) 専攻分野における研究能力を用いて他者の意見を理解するとともに、自分の意見を充分に表明できる能力を身につけている。
- (6) 自分の意見や立場について常に考える姿勢を身につけている。

〔3〕博士課程後期課程 人間生活学専攻

人間生活学研究科博士課程後期課程人間生活学専攻では、消費者科学および人間発達学を総合した人間生活学に関する高度な専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識

- (1) 豊かな人間性を支える広い教養を身につけている。
- (2) 広い視野に立って高度で豊かな学識を身につけている。

2. 思考力・実践力

- (3) 専攻分野において研究者として自立した研究活動をおこなうことができる。
- (4) 高度な専門性を有する業務に従事する研究能力を身につけている。

3. コミュニケーション力

- (5) 専攻分野における研究能力を用いて他者の意見を理解するとともに、自分の意見を充分に表明出来る能力を身につけている。
- (6) 自分の意見や立場について常に考える姿勢を身につけている。

人間生活学研究科 カリキュラム・ポリシー

〔1〕博士課程前期課程 消費者科学専攻

人間生活学研究科博士課程前期課程消費者科学専攻では、以下の教育課程を編成する。

2年以上在学し、授業科目を18単位以上、専攻する分野の研究演習1科目2単位、専攻する分野の特別研究10単位を含む計30単位以上を修得し、かつ修士論文または専攻が指定する特定の課題の研究成果の審査および最終試験に合格した者には、修士（消費者科学）の学位が授与されます。

〔2〕博士課程前期課程 人間発達学専攻

人間生活学研究科博士課程前期課程人間発達学専攻では、以下の教育課程を編成する。

2年以上在学し、授業科目を18単位以上、専攻する分野の研究演習1科目2単位、専攻する分野の特別研究10単位を含む計30単位以上を修得し、かつ修士論文または専攻が指定する特定の課題の研究成果の審査および最終試験に合格した者には、修士（人間発達学）の学位が授与されます。

〔3〕博士課程後期課程 人間生活学専攻

人間生活学研究科博士課程後期課程人間生活学専攻では、以下の教育課程を編成する。

3年以上在学し、授業科目につき修了要件単位6単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格した者には、博士（学術）の学位が授与されます。（在学期間については短縮の特例があります。）



**UNIVERSITY
ACCREDITED**
2015.4~2022.3

本学は、2014年度に実施された公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受けた結果、大学基準に適合しているとの認定を受けました。このマークは、それを証するものです。

公益財団法人大学基準協会とは：

1947年に、「内外の大学に関する調査研究を行い、会員の自主的努力と相互的援助によって、わが国における大学の質的向上を図るとともに、大学教育の国際的協力に貢献することを目的とする。」として創設された、国・公・私立の大学を会員校とする団体で、2015年度現在正会員として352校が加盟しています。

履修要覧

2021年度

2021年4月 発行

編集／発行 金城学院大学履修支援センター

〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目1723番地

T E L (052) 798-0180

URL <http://www.kinjo-u.ac.jp>